

栄養の目覚めシリーズ

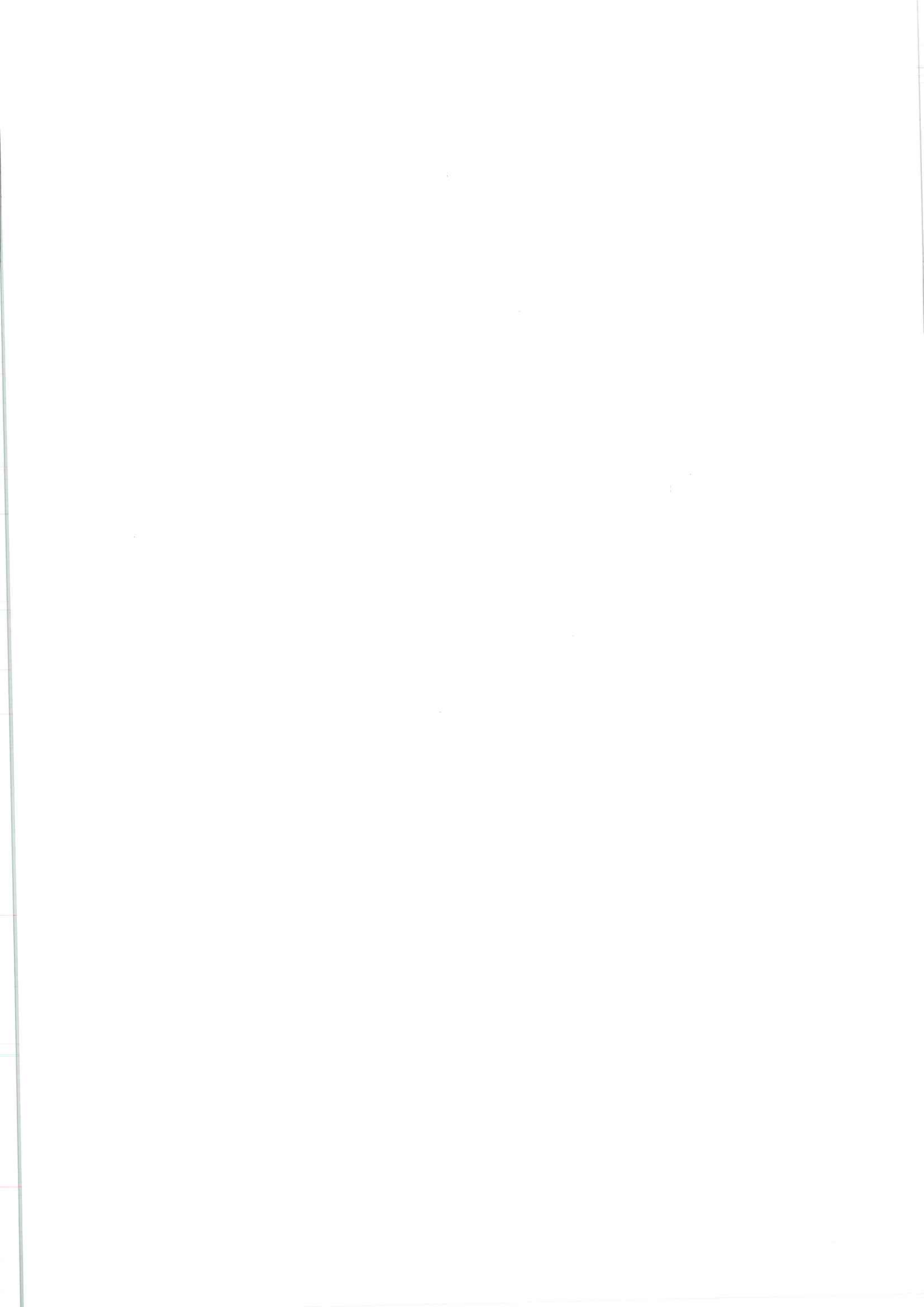
第1回 日本と世界の 栄養最前線に関する論点

日時：2021年2月8日〔月〕 / 7:30 - 9:00

会場：ホテル「ルポール麹町」3階会議室「エメラルド」

主催：特定非営利活動法人 日本リザルツ [RESULTS Japan]

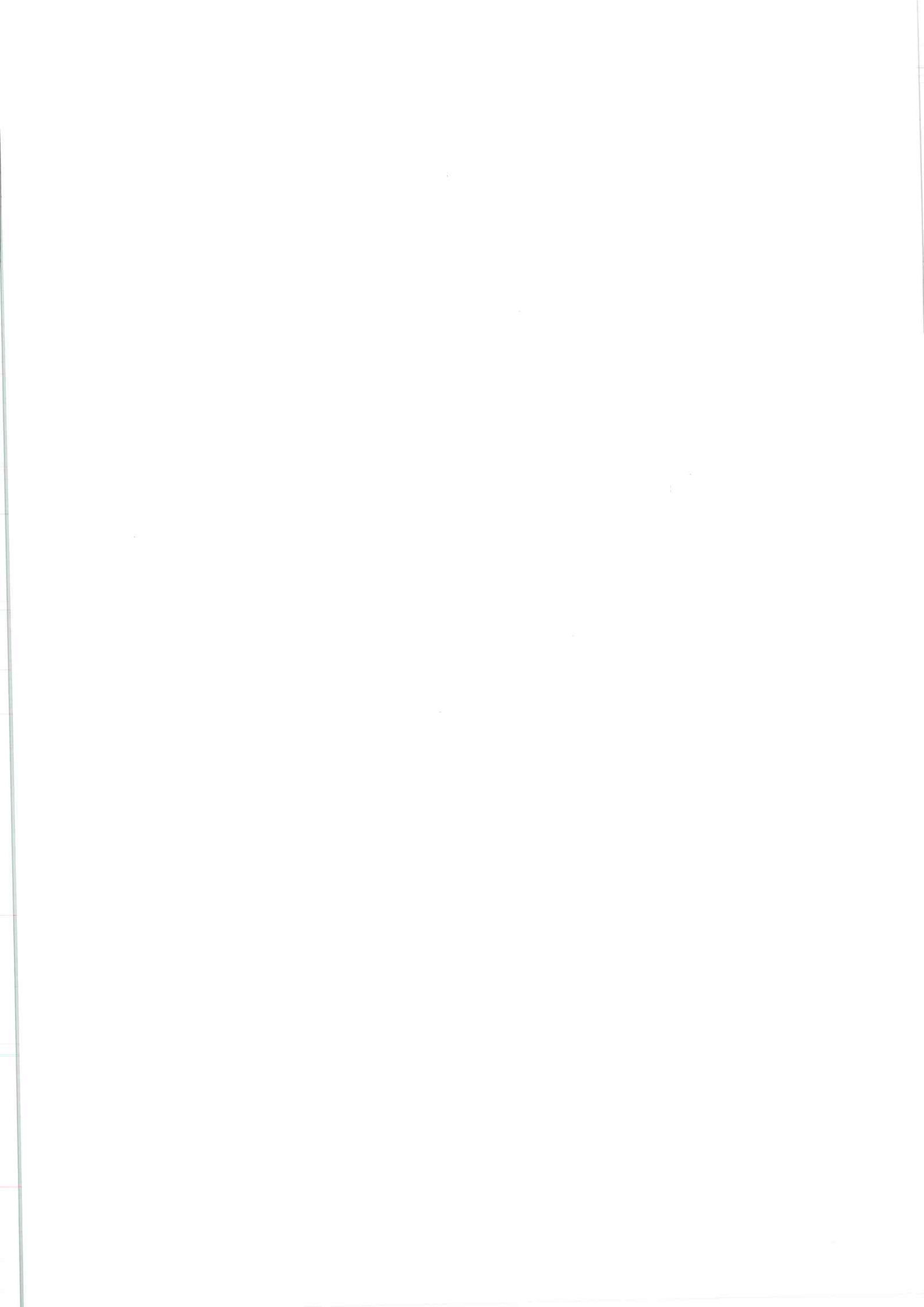




目次

日本と世界の栄養最前線に関する論点 議事録	3
基調講演資料	21
参加者	34
配布資料	35

* この議事録は発言者の確認を得たものではありません。



栄養の目覚めシリーズ

第1回日本と世界の栄養最前線に関する論点：2021年2月8日議事録

場所：ホテル「ルポール麹町」3階会議室「エメラルド」

式次第実績

時刻	内容
7:00	開場設営準備
7:30	開始
7:30	開催の挨拶及び登壇者ご紹介：日本リザルツ
7:35	武見敬三先生他ご挨拶
7:40	今井絵理子先生ご挨拶
7:45	基調講演（山本尚子氏）
8:10	武見敬三先生による質疑応答意見交換等全体協議進行
8:55	武見敬三先生からの総括
9:00	終了のあいさつ：日本リザルツ
9:10	会議室閉鎖

ご出席者：別表の通り

山本公一 日本リザルツ

本日は早朝より日本リザルツ「栄養の目覚めシリーズ」第1回にご参加いただきましてありがとうございます。総合司会を務めさせていただきます山本と申します。どうぞ最後までよろしくお願いいたします。本日は、その第1回目として、自民党国際保健医療戦略特命委員長及び国際母子栄養改善議員連盟会長代行を務められていらっしゃる武見敬三先生にはモデレーターを、WHO 事務局長補であり UN Nutrition 議長も務められていらっしゃる山本尚子様には基調講演をお願いしております。それでは、ここからの進行につきまして、武見先生よりよろしくお願いいたします。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

皆様、おはようございます。山本さん、おはようございます。お元気でなにより。今日は主催の日本リザルツさんにご尽力いただきまして、栄養に関する世界の科学誌トップ編集長等に聞くと題しました「栄養の目覚め」全5回シリーズにて、関係有識者の皆様との意見交換の場というのが今日のこの日でございます。本日の会合はその第1回目として、「日本と世界の栄養最前線に関する議論」を議題として取り上げて、山本尚子 WHO 事務局長補から基調講演をいただきます。山本様は新たに UN Nutrition の議長も務められています。おおよそこの栄養の問題というのは WHO だけに限らず WFP や UNICEF などの国連機関、更には民間との連携なくしては実行できない分野であるということで出来た UN Nutrition、そのネットワーク作

り、そこで中心的役割を果たしていただいているので、今日もその話は極めて有意義なことになろうかと思えます。

さて、このグローバルな問題解決を目指す持続的な開発目標 SDGs の達成という大きな課題があり、その第3目標に健康と福祉が挙げられています。健康改善の中の重要な大枠として、このUHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）の推進と、実質的栄養改善による疾病防止の両輪があろうかと思えます。私も、WHO からこのUHCに係る親善大使を命じられて、そのアドボカシーに係る仕事をしているものですから、是非こういう観点からの発展を期待するものであります。あと、わが国では、この栄養の問題というのは歴史が長く、それこそ貝原益軒の養生訓のころから、日常の食生活と健康というものについては幅広く深い認識が持たれています。そして、わが国におけるこの栄養学の近來における発展もこうしたコミュニティとの係りを強く意識した栄養学の発展というのがわが国の特徴ではないかと思えます。

そうした中で、米国や医学とより密接に係る栄養学の発展と対峙して、わが国のようなコミュニティの社会作りと栄養というものが健康作りと表裏一体となって形成されてきた歴史、そしてその経験というのは間違いなくこれから国際社会においてより大きな役割を担っていくものだと思えます。そしてその考え方は、とりもなおさず人間の安全保障という考え方と密接に関わり合っています。この人間の安全保障という考え方というのは非常に多くの政策分野を取りまとめて、そして共通の目標に向けてインテグレートしていく重要な政策概念であります。わが国では、SDGsの第3目標にUHCを組み込む時に、多くの目標を設定し、これらを2030年までに同時に確実に達成しようとするれば、確実にそこには他分野横断型の政策概念を確りと形成をし、その概念の中で異なる分野が異なる目標を達成する場合に相互に連携をしてシナジー効果を高めて、それぞれの目的をより達成しやすくするという考え方で、このUHCをSDGsの第3目標に組み込む大きな役割を担ってきたところでもあります。こうした考え方の広げ方というものに加えて、改めてSDGsの後半に入りますと、まさにこれまで以上に、ドライビング・フォースをかけて、SDGs達成のためのより大きなモメンタムを作っていかなければいけません。

そういった時に、このUHCに加えて、更により広い他分野に係る政策概念であるこの人間の安全保障という考え方を改めて再整理をして、SDGsを達成するためにも、より大きく貢献する分野横断型の政策概念として再構築していく必要があると認識しているところでございます。

今日は、山本さんが発表をしてくださるわけですが、その発表の中でも非常にこれから興味深いお話が伺えます。特に、コロナとの関係というものを見ますに、実際にコロナ感染の拡大抑止を行うと、その結果として、如何に健康にかかわる社会的要因というのが悪化し、それによって貧困の問題や更には栄養の問題に至るまで、非常にネガティブな影響を受けてしまいます。一つがうまくいっても十がうまくいかない、こうした複雑な相関関係というものが現実的にコロナ禍において、私どもは主要な政策を策定しようとするときにジレンマとして常に直面するということが、これから伺う山本さんの発表の中にも解説されることになるだろうと思えます。これらの問題につき、明らかに関連するそれぞれの分野というものが、いったい先ずどこになるのかということをもまずきちんと特定化して、そしてそれぞれの分野、以前であれば相関

関係があまり意識されなかったような分野さえもが、改めて意識されて、どのように他分野で相互に様々な影響を受けるのかということを考えることにおいて、人間の安全保障という幅広い政策概念というものは、まちがいなくこれから大きな役割を担っていくものだと思います。

改めて、山本尚子さんのプレゼンテーションをお聞きすることによって、非常に喫緊の栄養に係る課題、そしてこれらを解決するときに様々な新しい考え方が求められているという現状、これらが恐らく間違いなく私どもも理解できることになると思います。そういう意味で山本尚子さんの基調講演を聞かせていただくことは極めて大きな意義があろうかと認識しております。改めて、山本さんのご協力に感謝いたしますとともに、皆様もこのコロナ禍、朝早くからおいでいただき、ご参加いただきご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

山本公一 日本リザルツ

武見先生、ありがとうございました。ここで、今井先生に一言ご挨拶いただきます。

今井絵理子 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟事務局次長

皆さん、おはようございます。国際母子栄養改善議員連盟の事務局次長を務めております今井絵理子です。本日は、国際母子栄養改善議員連盟の山東昭子会長からメッセージを頂いておりますので、代読させていただきたいと思います。「本日の栄養に関する意見交換が、充実した内容で行われることを期待しております。是非、よろしく願います。」ということです。よろしく願います。

山本公一 日本リザルツ

今井先生、ありがとうございました。それでは、少し時間も押しておりますが、山本尚子様、ご講演の方、よろしく願います。

山本尚子 WHO 事務局長補

はい、おはようございます。WHO の山本です。本日はこのような機会を頂戴し大変光栄に思います。朝早くから皆様に画面でということですがお目にかかれることを喜んでおります。早速ですが、20分ほどいただきましたので、世界と日本の栄養最前線に関する論点ということでお話ししたいと思います。

パワーポイントがお手元にあるかと思いますが、2 ページ目を見ていただきますと、「栄養の目覚めシリーズ」全5回の第1回目ということで、本日の話しでは、世界の栄養を概観したいと思います。また、コロナの影響、そして2021年という年が非常に重要な年であることで、大きなサミット、特に日本の Nutrition for Growth Summit (栄養サミット) もありますので、最後にその論点をお話ししたいと思います。

まずパワーポイント3ページ目、世界の栄養障害の現状ということです。これから少しデータをご紹介しますが、2020年に3つの大きな栄養に関するレポートがでています。一つは、世界の安全保障と栄養の現状 (FAO)、もう一つは世界の栄養 (WHO)、最後は子どもの栄養

不良に関する合同推計ということで UNICEF・WHO・世銀が合同でレポートを出しています。これ以外にもございますが、基本的にこの3つのレポートにかなりの分野のデータが包含されていると思います。それでは3ページ目でございますが、右上に書かれています、地球上で20億人が安全で栄養のある食糧を十分に手に入れられてない現状があります。地球の総人口が77億人としてかなりの数になります。栄養障害あるいは栄養不良というのは大きく3つのカテゴリーに分けますと、まず栄養不足というものがあります。成人でも4億人を超える人たちが低体重であり、また、5歳未満の1億4千万人以上の子どもの発育障害つまり慢性的な栄養不足であり、4千万人を超える子どもたちが消耗症(Wasting Syndrome)ということにあります。また一方栄養過多ということで、18才以上の成人の19億人が過体重で、6億人が肥満ということですし、5歳以下の子どもでも4千万人近い子どもたちが過体重か肥満となります。また栄養過多あるいは栄養不足でなくても、微量栄養素不足があります。そこに出ていますように2億6千万人の再生産年齢の女性が鉄欠乏性貧血ということですから、栄養にも様々な栄養不良障害があるということとなります。

4ページの飢餓の問題ですが、徐々に飢餓人口は減っていたのですが、2014年からまた緩やかに増加していて、年間1千万人以上、5年間で6千万人以上が増加するという推計があります。5ページを見ていただきますと、2016年から2025年にかけての栄養の行動の10年、様々な行動をすべき10年と国連総会で決議されているわけですが、次の6ページには、その2016年からの取り組みを概観しております。子どもの発育阻害ですとか母乳育児促進は改善しています。ですけれども、目標としては、例えば発育阻害は2025年までに40%減らそうという目標に対して、必ずしも改善度合いは十分ではないということがあります。また一方で、子どもの過体重や成人の肥満というのは世界的に増加している状況にあります。

次は7ページですが、WHOでは健康作りのための様々な指標というものを持っておりますが、例えばクリーンなエネルギーで呼吸器障害を無くしていくとか、衛生・水あるいは子どもの発育等ありますが、特に肥満の問題は、もう全ての地域が抱える大きな課題の一つです。

次8ページになります。健康のための食事と栄養、栄養のための行動の10年の中には、健康的な食事・栄養に関する目標もあります。残念ながら不健康な食事や年間1千万人以上の方が亡くなっている現状があります。それで2023年までにトランス脂肪酸をゼロにするとか、塩分の30%減、あるいはフリーシュガー(砂糖)を減らしていくというような目標を掲げています。脂肪酸、特にトランス脂肪酸の問題は、完全になくしていくという目標のもとに行動している国もありますし、民間企業・大手企業の協力もございますが、日本でも取り組みが期待されることです。

次のページに参ります。9ページでは世界の総人口77億人の中で、30億人以上が健康的な食事をとることができないわけですから、多くの国で問題を抱えているということになりますし、赤で示されているインドやアフリカ地域では特に深刻な状況です。今まで述べてきましたコロナ以前から続く世界の栄養分野の課題を10ページにまとめました。栄養不良の問題を抱えてない国は一つもありませんし、複数の栄養不良問題を同じコミュニティでも家庭でも抱えているという現状があります。食事に関連したNCD(非感染症疾患)や生活習慣病の問題は子どもの死亡にも大きく関係しています。また、栄養不良の原因というのが様々な要因がある

というのは、先ほどの武見先生のお話にもございました。環境の問題や貧困の問題などがあります。

その次は11ページ、コロナ禍の影響について様々なデータが集まっていますのでご紹介いたします。一番大きいのは、貧困の問題です。世界での貧困については図にありますように減っていたわけですが、絶対的貧困の方が、シナリオで3色となっていますが、2020年に7千万人から1億人の人が新に極度の貧困に陥っているということが世銀のデータで発表されています。次の12ページのパワーポイントですが、飢餓の問題です。特にコロナ禍の影響というものが、シナリオはいくつかあるとはいうものの、2020年に世界の栄養不良の総数では8千万人から1億3千万人の方が飢餓を増加させるという推計がでています。また次の13ページですけども、子どもへの影響ということで、消耗症の子どもが、一つは先ほど武見先生のお話にもありますが、健康サービスが崩壊してしまっている状況、多くの国ではコロナ禍への対応に忙殺されて通常のサービスが不足している、あるいは様々な理由でサービスを担えなくなっていることがありますし、また仕事減ということもあって600万人以上の子どもたちが消耗症になってしまったため、MDGsからSDGsで世界中が取り組んできたことで様々な分野で獲得してきたプラス部分を、マイナスに転換するような大きな影響を世界中に与えています。また14ページには、子どもの肥満への勧告というものの実施が難しくなっています。これはコロナ禍で子どもの運動や活動が減るといってもありますし、スナックが増えていること、あるいは学校給食のプログラムにアクセスできない、またスクリーンタイム（ゲームなど）が増えているなど様々な影響が出ています。

次の15ページですが、先ほど基本的なサービスの話をしましたが、これはWHOのカントリーオフィスがある国で調査してまとめたものですが、コロナ禍によって基本的なプライマリーヘルスケア、UHCなどが難しく、予防接種や母子保健にもマイナスの影響がでており、50%以上の国でサービスを一部あるいは全部中止する状況を報告しています。次の16ページですけども、学校閉鎖（ユニセフによるデータですが）が学校給食に与える影響ということで、特に学校給食が唯一のバランスの取れた食事である子どもたちが学校へ行けなくなる、あるいはコロナによる家庭貧困の問題で学校に戻れなくなる、という問題が起きています。

次の17ページにコロナと健康格差のことを書きました。今、世界中の国からコロナと健康格差のデータあるいはエビデンスが発表されています。コロナは、そもそも格差やヘルス・エクイティの問題や世界経済の問題としても大きな問題ですけど、コロナによってそれが特に強く炙り出されたということがあります。これは日本でも指摘されたと思いますけれども、既に健康状態が悪かったり、社会的な貧困などの状態が悪い方に、よりコロナの影響が厳しく出ているという結果が世界各国から報告されています。コロナについては、健康だけでなく様々な不平等の問題で個人や社会に大きな影響を与えるということも強く認識されました。具体的にエビデンスが蓄積されて発表されているものとして、コロナと健康格差の関係には、社会的貧困あるいはインフォーマル・セクターの人々の問題、あるいは住宅の問題（人口が密集しているエリアに生活する人々など）、あるいは衛生面での劣悪な環境など、これらは各国がUHCに向けて動き出していたところ、コロナ禍により後退してしまっているということも報告されています。情報不足の問題も指摘されています。

こういう状況がある今、2021年に入ったわけですが、2021年は食料・栄養に関するハイレベルな会議が続きます。食の問題や栄養の問題を考える重要な一年になろうかと思えます。一つは明日から始まりますフードセキュリティの委員会ですが、新しいガイドラインを策定する議論が始まります。またWHO総会でも加盟国の中でも健康と栄養の議論で、コロナの影響あるいはコロナを超えた議論がなされます。9月には国連事務総長が声をかけているフード・システム・サミットが開かれ、多くの国が参加し様々な団体や学術団体と連携していく会合がありますし、COP26は昨年の予定が一年延期されて今年イギリス主催で開催となり、ここでも気候変動に影響するDietary Patterns(食事パターン)について議論がなされます。またそれを受ける形で、日本で開催される栄養サミットではSDGs達成に向けた各国の取り組みやコミットメントが注目されるどころです。

19ページに行きまして、武見先生のお話にもありましたNutrition関連の国連でのネットワークについて若干お話したいと思えます。実は国連機関にはよくありますが、同じような機能を持ったネットワークが2つございました。国連栄養常任委員会とSUN(Scaling Up Nutrition)の動きがあり、これは重複ではないかという議論もあり、UN Nutritionということ国連機関のネットワークを一本化するということが2019年から話し合われ、2020年に決まりました。グローバルな話だけでなく、国毎の栄養に関する様々な取り組みやネットワークをより強くしていくことを目指して作られました。このUN Nutritionは5つの幹事機関が関係し、その5つはUNICEF、FAO、WFP、IFAD、WHOです。それ以外にも参加意欲のある機関も一緒に参加していくことになっています。2021年1月1日から正式に発足するということが、どこの国連機関が最初の議長をやるかということが初めて話し合われ、レベルとしてはADGで、結局WHOがやることになり、初代は私にお鉢が回ってきたということになります。UN Nutritionの活動は加盟国にも連絡していくことになっています。

次は20ページになります。2021年にはこれから行われる大きな国際会議が2つありまして、一つがこのFood Systems Summitです。9月に行われるものですが、一番目指したところは、栄養や食料システムの問題というのはSDGsの全てに係る問題で、2番目の目標の貧困や飢餓を無くそうというだけでなく、全てのゴールにつながるという問題意識の元に行われるものです。次の21ページには、どういう問題意識を持っているかということを書いているのですが、その中でも変えなくてはいけないものは、消費者の動機付けであるとか、地域のエンパワーメントで健康的な食事を選べるようにすることです。またこれは大きく言われているものですが、動物由来の食品の過剰摂取を減らしていくということで、特に世界の食料需要が2050年までに50%増えると予想される中で、動物由来、特に肉など家畜の問題について見直すべきではないかということが云われています。また加糖飲料であるとか健康に良くない加工食品の消費を減らしていくこと、それからレストランなどからの食品の廃棄の問題、ゴミの問題が云われています。こうしたことが問題意識にあって、次の22ページには、サミットとしては様々なアクション・トラックでやるべきことをリストアップして各国で対応していく中で、それぞれの人々が自分たちでやることをアピールしていくことをし、それをフォローアップしていこうというお話です。

次の23ページには、東京栄養サミットのことを書きました。今日、外務省で担当されてい

る方もおられるので、あまり多くをこちらからというわけではありませんが、東京のN4G(Nutrition for Growth)サミットでも、市民との対話やパートナーシップを高めて、宣言や政治的な議論だけではなくて、それぞれがやれることをコミットしてくる、そしてそれを確りとフォローアップしていくということを主眼にしています。WHOもこれに協力させていただいております。

次の24ページからですが、議題にいただきました論点について何点かお話ししたいと思います。健康問題は、世界・各国における最重要事項だという認識はあるものの、政治的なモメンタムと申しますか、どこまでそれを高めていけるかということやハイレベルのコミットメントをどれだけ引き出せるかということはチャレンジだと思います。

2つ目の大きな論点としては、SDGs達成に不可欠な栄養の取り組みと書きましたが、栄養の問題というのはSDGs全てにかかわっていることで、健康とか飢餓対策だけでなく、貧困や教育や労働・ジェンダー問題・環境問題など様々な多くのことに関わっているということで、それらをどうやってシナジーを作っていくのかということが論点かと思えます。また今回COVID-19の影響についてお話ししましたが、社会の格差問題ということが大きくクローズアップされていて、その格差問題を図る一つの指標として、健康の指標である平均寿命の問題とか罹患率・重症度だったりします。そうした中で、ヘルス・エクイティの問題をポスト COVID-19の脈絡で、特に Building Back Better (より良い復興) といいますけど、健康格差問題を議論していく中で、栄養ということをどれだけハイライトし、また社会の方向性に対してどこまで貢献できるのかということが議論の一つだと思います。

もう一つ次に書きましたのは、ワンヘルス・アプローチといいますけど、栄養に関する課題というのは、人間の健康だけでなく、動物の健康あるいはそれを取り巻くエコシステム地球の健康も含めた議論が重要であるということが出てきています。1月にはフランス大統領が主催されたワンプラネット・サミットがあって、この点が大きな論点となりました。塩崎先生がおられますが、AMR(薬剤耐性)でも議論されています。このワンヘルス・アプローチには、ヘルス・セキュリティの問題またはそれを超える問題としてでてきています。ヘルス・セキュリティの問題というのは、過去50年で新たに出てきた病原体は約175あるわけですが、そのうち75%、約132が人畜共通感染症です。HIVエイズ、鳥インフルとかSARSあるいはジカ・ウイルスやエボラなどですが、コロナも含めて動物から人間へ、人間が起こした環境破壊などの影響で人と動物の距離が近くなっている状態で、動物から人へうつり広がっていくという感染症の問題があります。そうしたわけでヘルス・セキュリティの問題はワンヘルスの議論の中で重要視されているわけですし、それを超えてサステナブルな地球の環境あるいは人々の生き方や人類と地球の在り方もワンヘルスの議論としてなされています。それと栄養問題をどう考えていくのかということだと思います。

論点の4つ目は、栄養に係る人的資源の養成と人々のエンパワーメントやコミュニティの力と申すのをどうやって作っていくのかという議論があります。WHOでもですが、UHCやPHC(プライマリー・ヘルス・ケア)の命題の中に栄養を確りと位置付けていくことを考えていますが、それ以外にも地域での健康協力の問題が論点としてあげられると思います。25ページでは、その他の論点として、マルチセクターとの協働ということがあると思います。栄養の分

野というのは多様なパートナーと取り組まなくてはいけない分野ですが、その多様性というのをどこまで広くかつ強固にできるのかということです。食のことというのは、文化伝統に関わりますので、こういうことをどうやって尊重していけるのかということがありますし、その中でもフェアトレードであるとか地球の環境問題とか貧困問題とかに取り組んでいる若い人たちの力をどうやって栄養の分野でパートナーシップを築いていけるのかということが論点かと思います。

次の論点としては学問・技術・研究の分野ですけどまだまだ足りない分野、特にフードセーフティの分野等の必要性があり、今、WHOでもほかの問題と絡む問題や口腔衛生の問題、精神心理学の問題や伝統医学との関係などの議論がなされています。保健医療分野でも幅広い視野が必要になりますし、それを越えた学際的な研究、経済社会学やコミュニケーションや情報といった問題もあろうかと思っています。

次の論点としてはイノベーションです。他の分野でも民間企業との連携は重要ですが、この分野は特に民間企業との協力、また、ITインフラやAIは栄養の分野でどのように活用できるのか、人々の栄養状態を改善するのにどのように貢献できるのかということがあります。最後にやはり、エビデンスとデータだと思っています。アカウンタビリティの仕組みということですけど、栄養の分野でも様々な国際基準やガイドラインを作ってきておりましたが、これにどれだけ幅広い視点とか視野が研究に反映されるかどうかについては、まだまだ課題です。というのは、WHOもイノベーション機能を持っているといわれますが、残念ながらいろいろな審議会やガイドラインを作る専門家会合を見ますと地域や男女（ジェンダー）の問題でもまだまだ偏りがあると言わざるを得ません。そういう意味で日本に期待される点は大きいと思いますし、今後モニタリングしたデータをどのように活かしていけるのかというのが次の課題です。

いくつかの論点を宿題として話させていただきました。ただ、全てにおいて日本がリーダーシップをとり貢献できることがあろうかと思っていますので、この後の議論を楽しみにしております。ご静聴ありがとうございました。

山本公一 日本リザルツ

山本様、どうもありがとうございました。では武見先生、引き続きモデレーターよろしくお願ひします。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

はい、ありがとうございました。山本様、多岐にわたる課題、それから今、国際社会で様々な問題を2021年にどのように取り上げようとしているのかというお話は、私たちがこれから栄養の問題を取り上げる時に、現在どういう位置に私たちがいるのかということを理解するために大変役立ちました。今日は、会場にもたくさんの方が参加されているわけですが、まずはこうした幅広い問題提起に対してそれぞれの皆さん方が持つご関心や、山本さんに対するご意見やご質問をいただければと思います。最初に私の横にいらっしゃる塩崎さん、ご意見いかがでしょうか？

塩崎恭久 衆議院議員 元厚生労働大臣

ありがとうございます。塩崎恭久です。山本尚子さん、今日はありがとうございました。久しぶりにお顔を拝見して元気そうなので安心しました。今の話で栄養に関して網羅的に政策課題等についてお話いただき、今年が特に重要な年だということをおいただきました。確かに、日本にとっては栄養サミットが12月に予定されていますが、コロナ禍を経てこの一年にどのような政策インプリケーションを打ち出していけるかということは、とても大事じゃないかと思えます。そういう意味で3点申し上げたいと思えます。

一つ目は、武見さんと一緒にやってきたことなのですが、やはりCOVID-19を受けて日本の世界のグローバル・ヘルスにおける貢献というものを、ちょっと考え直さないといけないよねと、特に健康というのが安全保障の問題だと山本さんは触れていますが、この点で私たちは、武見先生が委員長をやっているグローバル・ヘルスと人間の安全保障委員会というのがあって、そのもとでいろいろ勉強させていただきました。そのなかで、去年の秋に保健ODAの在り方を考える特別委員会というのを作っていただいて、不肖私に委員長をやれということになりました。いろいろな議論を続けて去年の11月にとりまとめをしたのですが、その際に私たちとしては6つの提言がありましたが、一番はやはり国としてグローバル・ヘルスの世界貢献に、日本として何ができるか、何が重要であるかを定める司令塔がないといけないよねということで、司令塔を明確化し強化するという提言をしています。総理をヘッドとした健康医療戦略推進本部というのがありますが、ここで平和と健康のための基本指針というのが2015年に作られています。これが新しいものと捉えてきましたが、コロナ禍というものがあってガラッと様相が変わってしまったので、こここのところを作り直すためにも、この司令塔をはっきりさせた方がいいということです。もう一つはインフラ貢献がとても多く、ODAの中で25%ぐらい占めていることです。実は保健はせいぜい5%くらいしかなく、アメリカでは保健が一番で、イギリスもそうですしカナダもそうだとということで、やはり日本は保健における栄養を含めた支援を5年で倍増しようということを決めました。こうした点について山本さんがどのようにお考えになるかという点が一つ。

二つ目は、今お話のワンヘルスですが、去年私は、ワンヘルス・グローバル・グループというものに入れていただいて、20人くらいの世界の方々が集まって議論をし、提言をするという場をつくっていただきました。先週だったか、2日間連続で初めてのオンライン会合がありましたが、やはり特に今年はCOP26が11月にもありますし、それから今お話のフード・システム・サミットの中にもワンヘルスというものが入れ込まれているということで、そうなるといよいよもって、人間の健康と動物の健康と地球環境が本当に一体のものとして考えていかないといけないし、特に日本の抗菌剤が人間に対して使われているのは3割しかありません。あとは実は6割が動物であり、1割が農業。結局、AMRの問題が起きるのは食料の元に対して使われているということであり、これからどうやって抗菌剤フリーの食料を作っていくのかという農法の問題でもあって、これが地球環境に大いに繋がってくるわけであります。この辺がCOP26やフード・セキュリティ・サミットあたりに向けて、WHOの総会もありますが、これからどのように展開していくとご覧になっているかを山本さんに聞かせてもらいたいと思えます。

最後に、この間、介護報酬の改定が日本でありました。日本は栄養分野では先進国で栄養学というものも先進的で独立した学問として作り上げられ、実は私の地元の佐伯矩という人が栄養学の父と呼ばれています。介護報酬では、管理栄養士は今まで栄養加算というものをとっているかどうかは義務ではありませんでした。つまり一人管理栄養士がいれば施設としては問題ないということで、病院もその一つです。今回は、そういう中で初めて介護施設では50人の高齢者に対して一人の管理栄養士というのが決まったわけです。しかし、病院では少なくとも1人管理栄養士がいれば、患者が1,000人いようと20人であろうと、良いということになっています。これは医療に関しても栄養で世界をリードしようとするならば、健康の大本である医療で栄養というものをちゃんと位置付け、ここについても医療報酬はこの年末にありますから、ここで介護報酬と同じように、必須の要素として栄養というものを位置付ける意味でも管理栄養士を人数に応じた数だけ配置することが必要だと思っておりますが、この辺についてどう思われるか教えてください。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

質問は会場からたくさんあると思いますので、先に質問を聞かせていただき、山本さんに最後にお答えいただくようにします。時間が限られておりますので、高木先生、お願いします。

高木美智代 衆議院議員 国際母子栄養改善議員連盟副会長

山本さん、お久しぶりです。公明党の衆議院の高木です。以前大変お世話になりました。ありがとうございます。相変わらずお元気そうでうれしいです。よろしく願いいたします。私は、今日この2021年が如何に重要か山本さんから、特に最終的な12月時点の東京の栄養サミットが如何に重要かということをお教えいただきました。また重ねて世界の状況を教えてくださいましてありがとうございました。質問の第1点目は、この13ページのスライドにあるそれぞれのステップをハイレベル会合で作っていくのか、そのシナリオが重要かと思っております。おそらく、12月時点の東京でどういう風に取りまとめをしていくのかここが問われると思っております。このステップについて何かお考えがありましたら教えてくださいたいと思っております。それから日本の状況をどう見るかについては概観的に頂戴しましたが、例えば日本でもフレイル対策であるとか、またそれを通して地域共生社会作りをしていこうとか、私もずっと取り組んでまいりました。また食育であるとか、食品廃棄物を減らすための食品ロス減少の推進であるとか、そうした日本らしい取り組みがこれまであったかと思っております。こうした日本の取り組みの中で、例えば東京サミットの時にもっと日本が強化してこれを世界に発信すべきもの、例えば先ほど栄養をUHCに位置付けるという話がありましたが、まさにそのUHCにおいて日本が先進国ですが、その取り組みも恐らく評価されてしかるべきものだと思います。そして日本の存在感を更に増していくためにも、こうした日本の取り組みの中で更に前に進めていくべきといったようなご提案がありましたらお願いしたいと思います。以上2点です。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

次に誰か？寺田先生いらっしゃる？いいですか。では一言、お願いいたします。

寺田静 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟メンバー

参議院議員の寺田静と申します。私は6月に秋田の方でGGG+フォーラムが開催されるということで、秋田の方で頑張っておられる方々の励みになるのではないかと期待をしております。今日は、大変勉強させていただいてありがとうございます。また皆様からも学ばせていただければと思っております。今日はありがとうございます。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

ありがとうございます。どなたか？ちょうどいい人がいますね。江副さん、外務省の立場からひと言、お願いいたします。

江副聡 外務省 国際保健政策室長

武見先生、ありがとうございます。山本 ADG、ご尊顔を拝見できありがたく存じます。また貴重なご講演ありがとうございます。最後の塩崎先生、高木先生、寺田先生からもご指摘のありました東京栄養サミットにつきまして、改めてしっかりやっていく必要があると外務省としても認識を新にしました。日本政府の中でも外務省だけでなく、厚生労働省また農林水産省また財務省、経済産業省、文部科学省といった関係省庁と一緒にタッグを組んでやっていきたいと思っておりますし、議員の先生方のお力をいただきながらしっかりしたものに仕上げていきたいと思っておりますので、引き続き WHO としても UN Nutrition としてもご指導をよろしくお願いいたします。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

津金さん、いらっしゃいますか？お願いいたします。

津金昌一郎 国立健康栄養研究所 所長

国立健康栄養研究所の所長をやっております津金と申します。実は、35年間国立がん研究センターで研究しておりまして、山本さんが横浜の港南保健所にいた遙か昔に一度名刺交換をさせていただきました。8ページのスライドですが、世界的な問題である肥満とかトランス脂肪酸とかフリーシュガーという問題がありますが、日本でも食塩のことを除くと世界でもっとも低いし、特に女性は痩せ続け BMI も減り続けていますよね。日本とシンガポールの女性だけが痩せ続けている、といわれております。それから日本ではトランス脂肪酸もほとんどゼロで、脂肪の中でも飽和脂肪酸よりも魚介の不飽和脂肪酸が多いこととか、フリーシュガーについても、緑茶とか砂糖なしのものを日ごろ飲んでいきますので、そういう意味で日本は素晴らしいです。そこで、今後この素晴らしさを、世界で健康寿命も長いという日本の良さをこれから国際的にもどんどん科学的根拠に基づいて発信していくべきと我々は考えていますが、いかがでしょうか？

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

はい、ありがとうございます。ではその前に座っている武井さん、お願いいたします。

武井貞治 厚生労働省大臣官房国際保健福祉交渉官

厚生労働省の武井です。この度は貴重な講演をいただきましてありがとうございます。先生方からでて話と若干かぶりますが、今年に入りまして WHO の執行理事会ですとかそれ以外の会議でも栄養が注目されるようになってきているなど感じますし、執行理事会で高齢化に関する議論があり、その中で重要なパーツとして栄養が捉えられていたかと思えます。厚生労働省は、個別の疾患対策をどのように進めるかについては高い関心をもっていますし、その中でどうやって栄養が重要な役割を果たしているかということ、エビデンスをもって示していくことが重要だと考えております。先ほど塩崎先生からございましたように、ワンヘルスとかグローバル・リーダーズ・グループであるとかこうした中でも、厚生労働省だけでなく国内的には財務省・外務省・農林水産省・環境省、こういったところとの連携が重要だと思っています。海外で見たときに、国連の中で WHO それから FAO、OIE、それから UNEP などの横の連携である UN Nutrition という取り組みがあると先ほど伺いましたが、差し支えなければ国連のそうした横の繋がりをどう進めていくのかという点について教えていただければと思います。よろしく申し上げます。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

では、民間の方で、味の素の森島様、お願いできますか？

森島千佳 味の素株式会社 グローバルコーポレート本部食品事業本部 執行役員

山本先生、味の素の森島と申します。大変勉強になりました。ありがとうございました。当社も会社が中長期的に存在し成長し続けるために、グループを挙げて「食と健康の課題解決企業へ」ということを目指し、栄養を中核に据えてやっていこうと思っています。

今日のお話を聞いて改めて栄養というものを、狭くそのものだけを考えていても実質的に貢献できないなど、いろんな分野と関係しているということを含めて、ワンヘルスの話も出ていましたが、サステナビリティ等々の企業に対して広く求められていることをまず捉えて、その中できちんと皆様と一緒に語っていかなければということが大変強く感じました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

ありがとうございます。ご参加いただいた方にたくさんご意見お願いいたしたく、上智大学の榎本さん、お願いいたします。

榎本雅仁 上智大学リサーチフェロー

ありがとうございます。以前、農林水産省と JICA におりました際にいろいろとお世話になりました榎本でございます。今上智大学の研究所におります。高木先生もおっしゃっていましたが、如何に日本の今までの経験の中からのいいものを抽出して、この機会にどう貢献できるか

ということが重要ではないかと思っております。先ほど例示があった食育ですとか、栄養士の方々が現場で関与されているような仕組みなどをどのように発信していけるかお考えを頂戴できればと思います。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

ありがとうございます。電通の黒岩さんお願いいたします。

黒岩卓 株式会社電通 パブリックアカウント局 アカウント・ディレクター

日本リザルツさんのお手伝いをしております黒岩と申します。よろしくをお願いいたします。ご説明された中で3重負荷という言葉がありました。今まで私どもは2重負荷という言葉は使っていましたが、この3重負荷とはどういう意味なのかということをお教えいただければと思います。よろしくをお願いいたします。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

ありがとうございます。もう少し質問の時間が取れるかと思えます。財務省の河邑さん、お願いいたします。

河邑忠昭 財務省国際局開発政策課長

はい、財務省で開発を担当しております河邑と申します。本日は大変貴重なご講演ありがとうございました。何点か経済の観点からも重要なと思われる点といたしまして、11 ページ COVID-19 により貧困がどんどん進むという点、それから 15 ページでございますが、COVID-19 の影響を受けて基本的な母子保健や栄養サービスの崩壊といったものがみられるとのこと、大変憂慮しております。当方は、先週世銀の会合に出てまいりましたが、その中で COVID-19 の対応にお金がかかるということがありました。これを多くの国や国際機関が足元の COVID-19 の方に気を取られてしまって、実際それを支える基本的インフラとしての母子保健や栄養といったものが疎かにされているという指摘があり、私どもとしても重要な点と思った次第です。こうした説明をしていく中で、母子保健・栄養といったものがしっかりしているということが、実は感染症対策にとっても基礎的なコアであったのではないかと、すなわち栄養に投資していくことが COVID-19 対策としても非常に重要であったというメッセージを打ち出していけるのではないかと考えておりますが、いかがでしょうか？ よろしく申し上げます。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

ありがとうございます。日本栄養士会の中村先生、どちらにいらっしゃいますか？、お願いいたします。

下浦佳之 日本栄養士会専務理事

中村は所用で欠席しております、代理で出席しております日本栄養士会専務理事の下浦でございます。貴重な講演をいただきありがとうございます。私どもとしては、これまで国の

政策とともに栄養士会としての役割及び知見を、様々な国際的な部分で展開をしていくことが重要ではないかと考えます。この点につきまして、厚生労働省をはじめ関係省庁または機関と連携していきながら栄養サミットの成功に向けて進めたいと考えているところです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

あと、役所では農林水産省の方どなたかいらしてる？、お願いいたします。

松下茜 農林水産省食料産業局企画課課長補佐

農林水産省の松下と申します。津金先生からもお話しがありました通り、日本の食事というのは、トランス脂肪酸がゼロに近いとかシュガーフリーであるとか、そういった食事が進んでいます。これは日本での家庭教育、例えば調理とかにもよると思いますし、日本の食品産業の努力ということもあろうかと思っております。こういうことをどのように栄養サミットの中で農林水産省として発信していけばいいかということをお教えいただければと思います。よろしくお願いいたします。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

DSM ジャパンの丸山さん、いらっしゃいますか？

丸山和則 DSM-Japan 代表取締役社長

発言の機会をありがとうございます。オランダの会社 DSM の日本の代表をしております丸山と申します。よろしくお願いいたします。ご存じないかもしれませんが、売り上げ1兆円くらいの会社で3分の2くらいがビタミン等の栄養素を扱っている会社です。本社のサステナビリティ担当の者とよく話すのですが、本社の方では WFP とか FAO などと直接お話をし、プライベートセクターとしてできることは何かというような議論をよくさせていただいているという風に理解しています。一方で、なかなか日本におりますとそういう方々と直接お話しする機会も少ないですし、日本ならではの良さもなかなか発信しにくいところもありますし、グローバルな議論を日本に持ち込むこともまた難しいと思います。そういう意味で、今回山本様が UN Nutrition 議長になられたことはとてもすばらしいと思います。日本と世界の動きを連携させていくというところで我々も微力ながらやっていますが、ぜひ前に進めていただければと思います。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

はい、JICA 上級審議役の佐藤さん、いらっしゃいますか？

高野守 JICA 経済開発部 参事役

本日、佐藤は所用で欠席のため、代理で参りました参事役の高野と申します。貴重な講演ありがとうございます。JICA は途上国の栄養改善をこれまでも支援していますが、やはり先ほど

からお話がありますように、マルチセクターであるとかマルチステークホルダーが重要と認識しており、海外で事業を進めていくに際して、何かアドバイスをいただけると幸いです。ありがとうございました。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

山本さん、会場の方々から沢山の質問やご意見をいただきました。大変ですがよろしく願います。

山本尚子 WHO 事務局長補

はい、大変貴重な質問やコメントをありがとうございます。そうそうな方々でご専門の方も多いかと思いますが、せつかく頂戴したので、これからの議論のためにも一緒に考えたいと思います。

塩崎先生、お久しぶりでございます。一つは保健の ODA に対して拡充の方向を打ち出していることに感謝しますし、心強く思います。ただ、問題について一番重要なことは、結局人作りということだと思います。その育成も狭い範囲の専門家を作っていくというよりも、チームとして栄養・健康・医療の問題、あるいは水や衛生の問題やコミュニティ作りの問題をチームとして作っていける、そういった地域作りができる人たちをどうやって育てていくのか、それに日本がどう貢献できるのかということが求められるのではないかと思います。またワンヘルスのお話は、2016年に塩崎先生が大臣でいらっしゃったときに、リーダーシップを取って AMR の分野ではワンヘルスで行きました。それ以外の分野、例えば農業でも、本日農林水産省の方もいらっしゃいますが、ワンヘルスという問題はいろいろなところで唱えられてきました。コロナ禍で直面していることとしては、より直接的には抗生物質の使用、土地開発、農業の使用、家畜の育て方、地球資源の使い方など、全てのことを包含する概念としてワンヘルスという考え方が出て、それが次の世代において地球の人間と動物の関係を考えていくということになっていると伺っています。ですから、このワンヘルスの議論は非常に幅広い議論がなされていくものだと思います。栄養士のことは、財源の問題も含めて栄養を進めていく担い手をどうしていくのか、これを世界の脈絡で言うならば、担い手を社会が確りと持ち続けられるような制度、あるいは仕組みというのが必要になり、それがまた UHC へも繋がっていくのだろうと思います。

また、高木先生からお話がありました一連の会合など 2021 年の重要性については私も本当にそう思います。誰かがシナリオを作って順番に会議を計画していたというよりも、ある意味偶然というか必然的にこの時期に行なわれているような様々な会議が、栄養・食料・食品という問題にフォーカスしておりますし、それに呼応するように 9 月の国連総会での議論というのが入ってきているのだと思います。その最後、「トリ」というわけではありませんが、12 月にそれをまとめる形で日本にて栄養サミットをやるということですので、それぞれの議論されていることを日本がどう消化し、より高いレベルに持っていけるのかということが期待されていると思います。

日本の分野で、いろんな方から日本の栄養の取り組みの素晴らしさのお話がありましたが、

特に武見先生の冒頭のお話にもありましたコミュニティ・エンパワーメント、地域の栄養改善推進員ですとか地域のリーダーを作っていくことを日本が50年間やってきたことが非常に大きなことだと思います。世界では、まだまだ高齢者の栄養という分野にはなかなかまだフォーカスできていませんが、日本では子どもの時から思春期を経て成人となり、また高齢者となってもより健康でいられるような栄養というものを提言できるのではないかと思います。そういう意味で、寺田先生からもエールをいただきましたし、江副さんからも日本の栄養サミットへの決意をいただきましたので、WHOも一緒に盛り立てて一歩でも前に進めるようにしたいと思います。津金先生から日本の良さの話が出ました。日本の過去の成果から学べることも多いと思いますし、それをエビデンスとして確りと出していき、世界に示していくということも重要になると思います。ただ、日本の良さもありますが、世界と共通する課題、例えば子どもの貧困と栄養の問題というのは、今世界でも問題となっていますし、コロナによる悪化も云われています。日本もその問題をどうしていくのかということに直面しているのではないかという風に思います。また社会的な貧困層とか厳しい状態に置かれている方、あるいは日本にお住まいの外国人の方の中でも厳しい労働を強いられている方達の栄養の問題とか、結局健康格差とかヘルス・エクイティの話をする、そういうDisaggregate(バラバラな)されたデータが確りとされなければ、その先の議論ができない前提の中で、その分野での日本のデータ発信に期待するところです。

武井さんからは、国連の横の繋がりについての質問がありましたが、本当に難しいということを目下実感しております。特にカントリーのレベルで、国・地域のレベルの連携ということはずっと言われていながらやっているのですが、やはりその国々のリーダーシップを育ててその元で連携していくということをやっているうちに、そこで学んだことをグローバルな場所で昇華させていくということだと思います。味の素の森島さんからお話のありました味の素の様々な貢献とそして困難というか世界のルールの中で日本がやっている様々なものをどう標準化していくのかということについて、力不足のところもありますが世界に共通するガイドラインやルールを作っていく時に、日本あるいはアジアの声あるいは知見というものをどうやって確りと反映させていくのかということは課題だろうと思います。そういう意味で上智大学の榎本さんから日本の良さを発信していくということがありましたが、日本のもう一つの良いところは、食品衛生の分野で非常に素晴らしい取り組みがされていることだと思います。保健所の仕組みだったりラボラトリーの仕組みや、登録などの仕組みだったり、この分野でも発信が期待されますし、それが日本の良い栄養摂取にも繋がっていると思います。電通の黒岩さんからの話でもありましたが、栄養の分野というのは、栄養過多と不足の問題や、全体のカロリーの達成できていても微量な栄養素が不足しているということが栄養不足にも栄養過多にもあるということで3重負荷(Triple Burden)という分野でお話させていただきました。

財務省の河邑さんからは感染症に対する母子保健の意味というお話をうかがって日本のやってきたことは本当にそうだと思います。ただ、感染症の場合、Preparedness(準備期)・Recovery(回復期)のそれぞれにおいて、特に感染症の母子保健においても、情報の集約とか伝達の仕方に課題があります。例えば中央の大きな病院や施設や制度・仕組みと地方市町村における状況で、検査室の情報がどれだけ迅速に収集できるか、それぞれの地域・

コミュニティのデータをどれだけ纏めていけるかという点があります。次に、全体の政策に活かされるかといったデータを収集・分析することとそれを意思決定あるいは政策にどれだけ確りとリンクしているか、という地域の母子保健を超えたネットワーク・制度や仕組みの問題があるのだと思います。今ITの時代ですのでそういう新しい取り組みができるのだと思います。

日本栄養士会からのお話がありましたが、特筆すべきなのは栄養サミットが今年の12月に行われ、その1年後2022年に国際栄養学会が日本に初めて誘致されると聞いております。おそらく2021年の栄養サミットや様々な国際会議で出たことなどが、その後、1年経った2022年にサイエンス・エビデンスの分野でどうなっているのか、あるいは地域活動の面でどう活かされているのか、確りとレビューする1年となります。そういった意味からでも日本の貢献が期待できると思います。農林水産省の松下さんから、日本が良い努力している分野あるいは日本が秀でている分野をどう伝えていくかということがありましたので、更に深めていければと思います。

その他DSNの丸山さんあるいはJICAの方からはマルチセクターの話も出ました。日本の良さとそれを世界の脈絡で普遍的なものとして提示できるかということ、また得意なものとしてどうしていけるかということではありますが、2021年中の日本からの発信を期待します。

WHOも是非日本のご支援を得てより貢献したいと思います。

以上です。武見先生よろしく申し上げます。ありがとうございました。

武見敬三 参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行

ありがとうございました。時間も超過していますが、大変貴重な意見交換ができたと思います。ポストコロナの状況をどう捉えるかという視線が必要だと多くの皆様からの指摘がありました。それをどう捉えるかという中で、やはり栄養の問題というのがそれぞれ社会経済文化のいろいろな分野と、一体どういう関係性を持っているのかということ、ひとつずつきちんと確認をして、それらの関係性を関係する組織がきちんと連携していくという政策的な理論武装というのが必要である、ということを感じました。今年、多くの国際会議が開かれ、その「トリ」を日本が行うということと伺ってございましたけれども、来年は更に世界栄養学会が初めて日本で開催されるということでもあります。こうした大きな国際イベントでの議論を正確に把握して、それらを活かしていきながら、12月のサミットや学会に向けたシナリオをいかに描いていくのか、そしてその中で日本の役割というのを明確に作っていくために、日本の特色をきちんと科学的エビデンスに基づいて発信していくことが求められてくると理解いたしました。

多くの皆様からたくさんの貴重な意見を頂戴しました。すぐに全部を消化することは大変ですので、この後の整理調整は日本リザルツの白須さんにお任せをいたしまして、改めてこの会議を主催していただいた日本リザルツの方々にも感謝申しあげ、司会に戻します。ありがとうございました。

山本公一 日本リザルツ

武見先生、皆様、ありがとうございました。それでは皆様、朝早くからお越しいただきまし

て誠にありがとうございました。大変活発な意見交換をお伺いし、この後、我々も頑張ってまいりたいと思います。皆様、どうもありがとうございました。

日本と世界の栄養最前線に関する論点

山本 尚子
UN Nutrition 議長
WHO 事務局長補 (UHC/Healthier Populations)
E-mail; yamamoton@who.int

1

本日お話ししたいこと

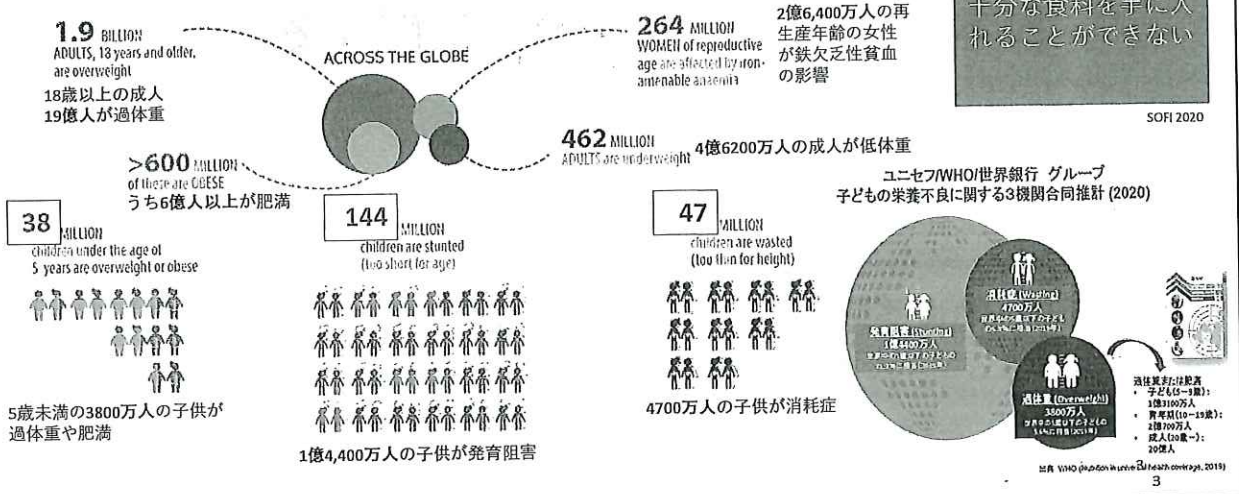
- 1 世界の栄養分野の課題
- 2 COVID-19による影響
- 3 2021年の意味
- 4 Food System summit
- 5 Nutrition for Growth Summit
- 6 SDGの達成に向けて
ー論点とアプローチー

2

1. 世界の栄養障害の現状

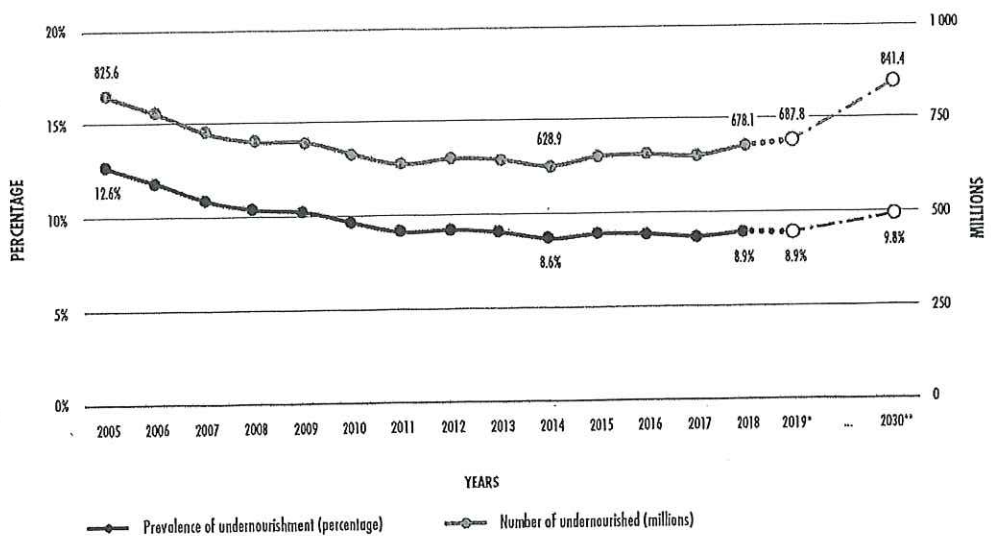
WHERE ?

MALNUTRITION AFFECTS ALL REGIONS WORLDWIDE



飢餓人口は2014年から緩やかに増加しており、1年で1000万人、5年で6000万人近く増加

世界は2030年までに、「ゼロ・ハンガー (飢餓をゼロに)」を達成するための軌道に乗っていない。



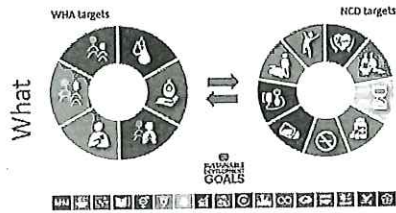
「栄養のための行動の10年」 2016-2025

UNITED NATIONS DECADE OF ACTION ON NUTRITION 2016-2025

2016年4月、国連総会（UNGA）は、2016年から2025年までの「UN Decade of Action on Nutrition from 2016 to 2025（栄養のための行動の10年）」を宣言。（日本は共同提唱者）

When NUTRITION DECADE

2016 2025 2030



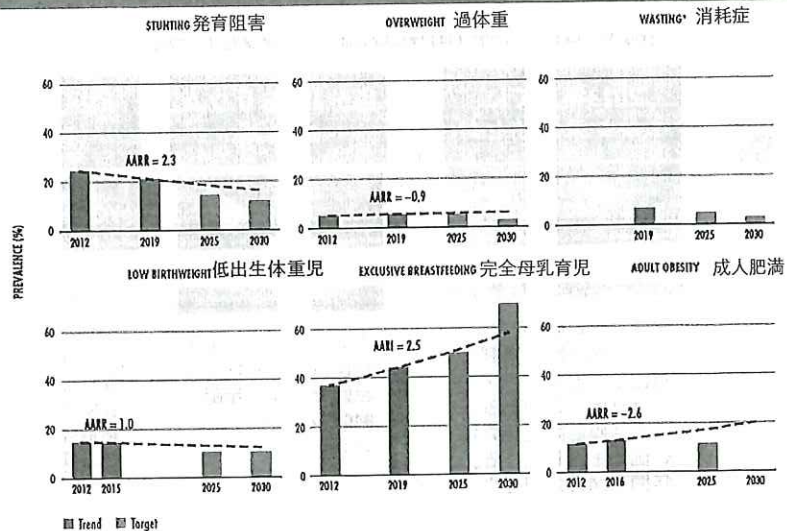
How ICN2 Framework for Action

- Sustainable, resilient food systems for healthy diets.
- Aligned health systems providing universal coverage of essential nutrition actions.
- Social protection and nutrition education.
- Trade and investment for improved nutrition.
- Safe and supportive environments for nutrition at all ages.
- Strengthened governance and accountability for nutrition.

- 栄養のための世界的な行動における新たな志と方向性。
(あらゆる形態の栄養不良を根絶し、全年齢層の食事に関連するNCDの負担を軽減する)
- SMART コミットメント
*SMART = specific, measurable, achievable, relevant, and time-bound
- 6つの行動領域
 1. 健康的な食生活のための持続可能でレジリエントな食糧システム
 2. 必要不可欠な栄養行動をユニバーサルにカバーする、連携したヘルスシステム
 3. 社会的保護と栄養教育
 4. 栄養改善のための産業と投資
 5. すべての年齢層における栄養のための安全で支持的な環境
 6. 栄養のためのガバナンスと説明責任の強化

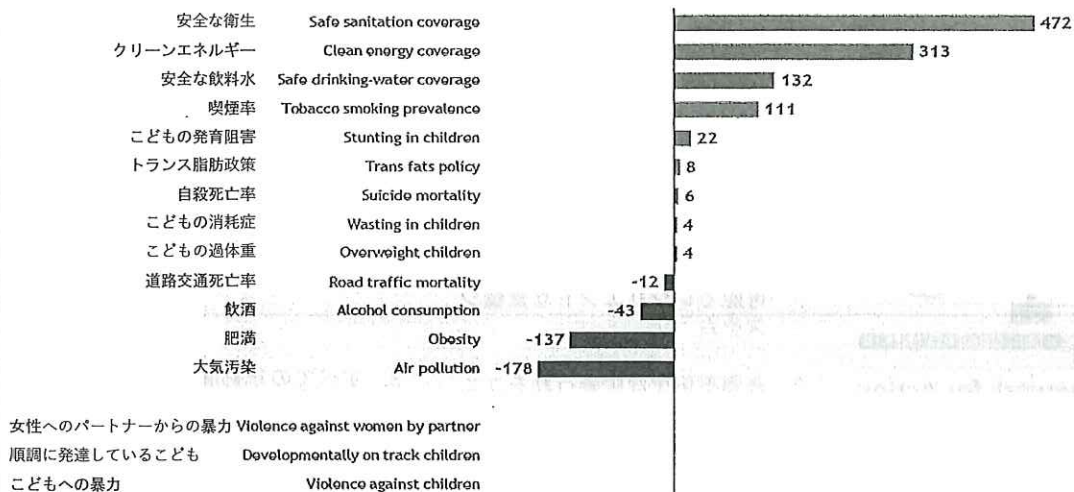
世界の栄養障害の克服は順調には進んでない

- 子どもの発育障害や完全母乳育児は改善されているものの目標には届いていない。
- 一方で、子どもの過体重は改善されず、成人の肥満は増加傾向にある。



健康的な人口の指標に関する世界の進捗状況

Projected country progress on the HPOP indicators
In millions



7

健康的な食事と栄養： 「栄養のための行動の10年」の目標

影響: 不健康な食生活：年間1000万人の死亡者
 高いBMI：年間400万人の死亡者

目標:

2023年までに
トランス脂肪ゼロ



世界では約9億人がトランス脂肪酸を過剰に摂取しており、ベストプラクティスであるトランス脂肪酸政策のない国で生活している。年間約50万人が死亡

塩分/ナトリウム
30%減



ナトリウムの大量摂取は血圧上昇の主な原因であり、年間940万人が死亡している。

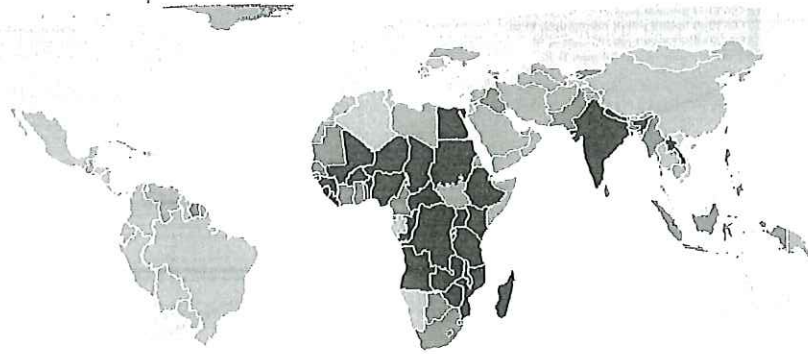
フリーシュガー
(遊離糖類) 減



2016年、世界の成人人口の13%（男性の11%、女性の15%）が肥満。10%以上の遊離糖類の摂取は不健康な体重増加と関連。

8

世界で30億人以上の人が健康的な食事をとることができていない



Average percentage of the population who could not afford a healthy diet in 2017

■ No data < 10% ■ 10-25% ■ 25-50% ■ 50-75% ■ 75-100%

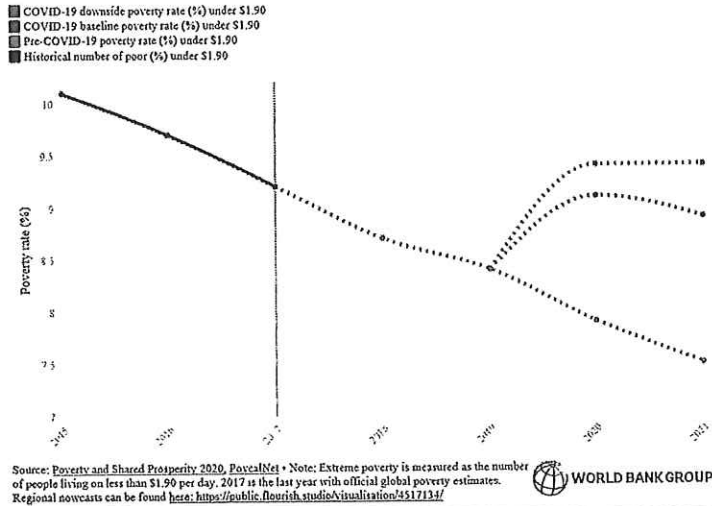
COVID-19以前から続く世界の栄養分野の課題

- 栄養不良の課題を抱えていない国は一つもない。
- 複数の形態の栄養不良が、同じ国、同じコミュニティ、同じ家庭、さらには同じ個人にも存在する。(2重負荷、3重負荷)
- 食事に関連したNCDは、世界の主要な死因の一つである。
- 5歳未満の子どもの死亡原因の45%は栄養不良と関連している。
- 国や人口集団の間で異なって進行する
- 栄養不良の原因は複数あり、マルチセクターのアプローチが必要
 - ▶ 家庭における不安定な食事
 - ▶ 不十分な妊婦・育児ケアの実施
 - ▶ 劣悪な健康環境と不十分なヘルスサービス
 - ▶ 貧困、経済の停滞や低迷
 - ▶ 紛争
 - ▶ 自然災害、気候変動の影響
 - ▶ 不公平・不平等(性別、所得など)
 - ▶ その他、社会の政治的、経済的、環境的、文化的特性とその相互作用

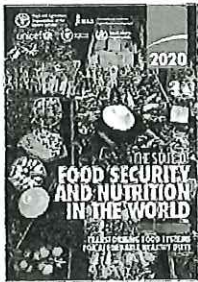
2. COVID-19による影響：① 貧困

COVID-19は、2020年に7,100万人から1億人の人々が新たに極度の貧困に陥る原因になっていると推定されている（1日 1.90ドルの国際貧困ラインを用いて測定）。

Figure 1: The impact of COVID-19 on global extreme poverty

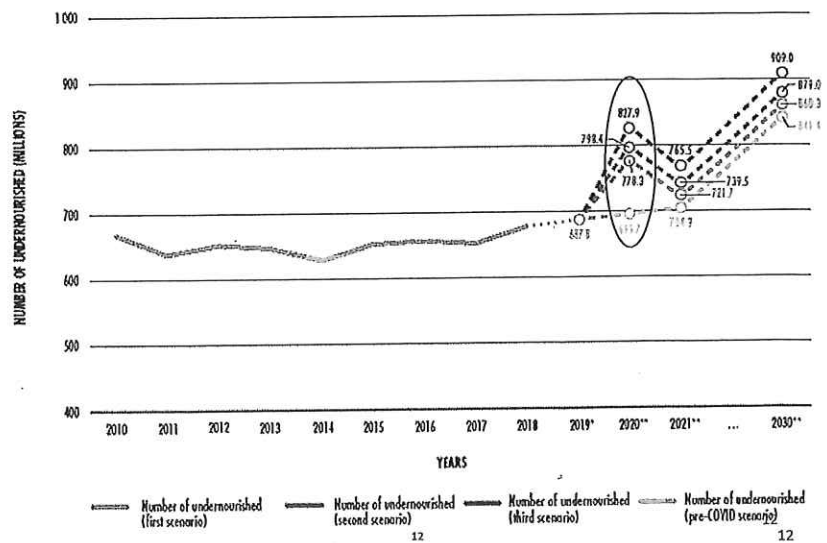


11



COVID-19による影響：② 飢餓 —3つのシナリオ—

COVID-19は、2020年に世界の栄養不良の総数を8,300万人から1億3,200万人増加させる可能性がある。



The unprecedented global health and economic crisis caused by COVID-19 is expected to have significant impacts on public health and nutrition. The impact of COVID-19 on public health and nutrition is expected to be significant, particularly in low- and middle-income countries (LMICs). The impact of COVID-19 on public health and nutrition is expected to be significant, particularly in LMICs. The impact of COVID-19 on public health and nutrition is expected to be significant, particularly in LMICs.

COVID-19による影響：③消耗症の子供の増加

平均7.9% (SD 2.4%) のGNIの減少が推定

GNI (国民総所得) 減少

健康サービスの崩壊

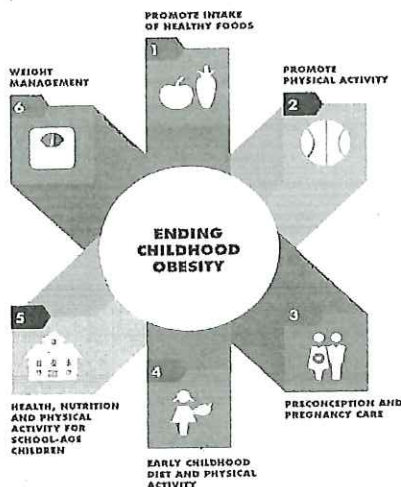
2020年には、さらに1億4千万人が1日1.90米ドル未満の極貧生活を余儀なくされることになる。

+ 14.3%
(6.7 M)

51%の国が消耗症の管理サービスの崩壊を報告している

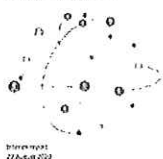


Covid-19の影響：④ECHO勧告の実施が困難に

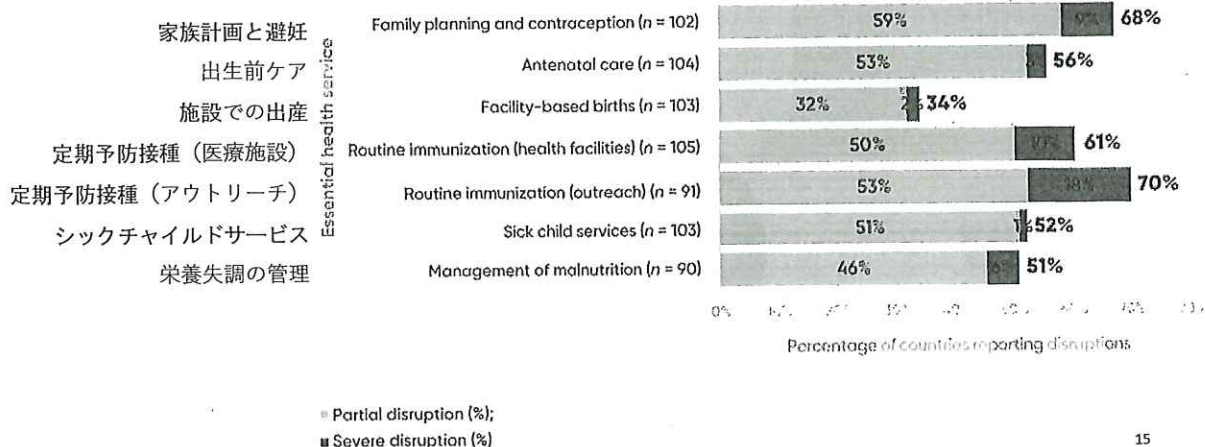


- 生鮮食品へのアクセスの低下
- 流動性の低下
- TVやPC等、スクリーンタイムの増加
- 出生前ケアへのアクセスの低下
- 母乳育児を妨げるメッセージ
- 母乳の代替品や糖分、塩分、脂肪分の高い食品/飲料品の増加
- 学校給食プログラムの崩壊
- カウンセリングサービスへのアクセスの低下

Pulse survey on continuity of essential health services during the COVID-19 pandemic



COVID-19の影響：⑤基本的な母子保健・栄養サービスの崩壊



15

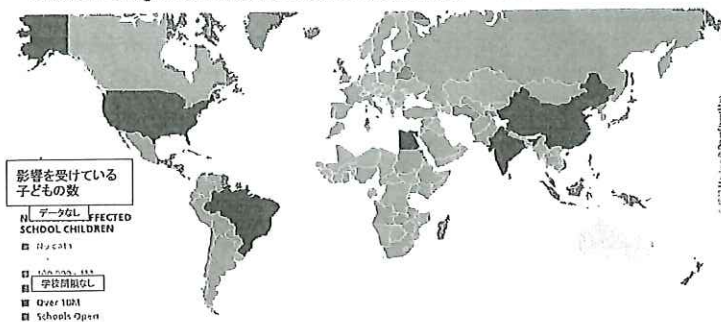
COVID-19 による影響：⑥学校閉鎖が世界中の学校給食に及ぼす影響 (2020年5月20日時点)

多くの子どもたちが栄養摂取の大半を学校給食に頼っているにもかかわらず、3億6800万人の学童が給食を食べることができない状況に陥った。

3億6800万人
全世界で給食を食べることができない学童の数(うち48%が女児)

194か国
学校閉鎖を実施している国の数

Children missing out on meals at school globally (48% are girls) Countries with school closures



Data on the global monitoring of school meals during COVID-19 school closures is updated frequently [here](#). The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.

出典: UNSG Policy brief: The Impact of COVID-19 on food security and nutrition (2020)

16

COVID-19の健康格差への影響

- COVID-19禍は、あらゆるレベルで健康格差が大きいことを浮き彫りにした。
 - すでに健康状態の悪化に苦しみ、脆弱な状態で生活しているコミュニティに影響大。
- COVID-19危機はまた、不平等が個人や地域社会の健康に様々な影響を及ぼすこと再認識させた。
 - 男性がCOVID-19の影響を直接受ける可能性が高い一方で、パンデミックの社会的、経済的負担は女性が不均衡に負担していることを示す証拠が増えている。
 - COVID-19の社会的、経済的影響は、既存の健康、ジェンダー、社会経済的不平等を悪化させる危険性があり、これらに対する対応の必要性がさらに高まっている。

不平等・健康格差を悪化させる社会的決定要因 (SDH) (エビデンスの蓄積)

- 貧困と日雇い賃金への依存、非公式経済 ・ 社会支援プログラムの弱さ
- 貧しい住宅、困窮した公共エリアとサービス ・ 住宅・公共エリアの混雑
- 衛生面での劣悪さと衛生設備の不足 ・ 脆弱なヘルスカバレッジ、ヘルスケアへのアクセスの悪さ
- 低い賃金、労働条件のサポート不足 ・ 不十分で不適切な情報
- 公共交通機関や多くの移動を必要とする生活・労働条件

3. 2021年の食料・栄養に関する主なハイレベル会議

CFS47 (2021年2月)

^{*}Committee on World Food Security

栄養のためのフード・システムに関する自主ガイドラインを承認予定。

World Health Assembly (2021年5月)

COVID-19危機に関連して、WHAにおいて加盟国が健康と栄養問題の議論を加速。

Food System Summit (2021年9月)

ステークホルダーが食料システムの将来に影響を与える複雑な選択をよりよく理解、管理することで、SDGsの達成に向けた取組を加速。

COP 26 (2021年11月)

気候変動に影響を与えるDietary Patterns について議論するフォーラムを開催。

Nutrition for Growth Summit (2021年12月)

N4Gは、新たな政策と財政的コミットメントにより、SDG2「飢餓をゼロに」等をさらに加速させる機会。さらに、より健康で持続可能な社会を築くための幅広いコミットメントを集め、その実現を求めめる。

UNITED NATIONS DECADE OF
ACTION ON NUTRITION
●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●
2016-2025

Global Food Safety Strategyの策定

UN Nutrition/について

- 背景**
 - 2020年に国連栄養常任委員会(UNSCN)とUN Network for SUN (UNN)を合併し、UN Nutrition (世界および国レベルでの国連機関の栄養に関するプラットフォーム)の形成を合意。
- 目的**
 - UN Nutritionは、栄養に関する国連機関の連携を強化し、各国政府へ提供する支援をコーディネートすることにより、現場へのインパクトを高めるために活動。
- 構成**
 - UN Nutritionは、5つの主要機関(FAO、IFAD、UNICEF、WFP、WHO)に加えて、ローテーションによる2つの追加メンバーで構成される運営委員会によって運営。
 - メンバーは、それぞれの権限の中で栄養の主流化を目指し、栄養分野での成果を支援することを目的とするすべての国連機関に開かれている。
- 議長**
 - 2021年1月1日、WHOのADGが初代のUN Nutrition議長に就任。任期2年。
- アカウンタビリティ**
 - UN Nutritionは、議長を通じ、ECOSOCを介して国連加盟国に説明責任がある。

4. Food System Summit 2021

目的

- 2030年までに持続可能な開発目標(SDGs)を達成

持続可能な食糧システムは、飢餓をなくすだけでなく、17のSDGs全てに貢献

(例)

□ SDG1. 貧困をなくそう

世界人口の10%に当たる7億人以上が、いまだに極度の貧困の中で暮らしている。

□ SDG4. 質の高い教育をみんなに

2020年4月時点で、16億人近くの子どもや若者がパンデミックのために学校を休んでおり、学校給食に頼っている3億6900万人近くの子どもたちは、他の場所での食料調達を余儀なくされている。

□ SDG10. 人や国の不平等をなくそう

小規模の農家に支えられている世帯には15億人もの人々が暮らしており、その多くは非常に貧しい世帯である。

持続可能な食糧システムは、

良い仕事を生み出し、食料へのアクセスを改善し、健康的なコミュニティを支援することで、貧困との戦いに貢献する。

すべての生徒が、健康的でバランスのとれた食生活を送る、学び続けられるようになる。

仕事、良い収入、健康的でバランスのとれた食事を提供し、最貧困層の人々を引き上げる手助けができる。



The changes we need...

- 消費者がより健康的で持続可能な食料・食品を選択できるように動機付け、エンパワメントする。
- 世界レベルにおける動物由来の食料（特に赤身肉）の過剰摂取を控える。
（⇔世界の食料需要は2050年までに約50%増加。
動物由来の食品（肉や牛乳）の需要は2倍以上になるとの推計。）
- 加糖飲料や健康に良くない加工食品（高カロリー、トランス脂肪酸、Free Sugars、人工甘味料、人工着色料など）の摂取を減らす。
- 食料提供サービス、小売り、家庭における食料の廃棄を50%減らす。
- 食料・食品の安全の確保・改善。AMRへの取り組みの推進。

21



United Nations



Food Systems Summit 2021

サミットの成果

1. 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に向けて、重要なアクションと測定可能な進展を生み出す。
2. 私たち全員がSDGsを達成するために、食糧システムの改革が、人と地球にとって良い改革を実施することでどのように役立つかについて、認識を高め、議論を進める。
3. SDGsを支援するために食糧システムを活用しようとしている政府やその他のステークホルダーの指針となる原則を策定する。
4. サミットの成果が継続して新たなアクションと進展につながるよう、フォローアップとレビューの仕組みを作る。

アクショントラック

1. すべての人が安全で栄養価の高い食品にアクセスできるようにする

2. 持続可能で健康的な消費パターンへのシフト

3. 十分な規模でのネイチャー・ポジティブ・プロダクションの増加

4. 平等な生活の促進

5. 脆弱性、ショック、ストレスに対するレジリエンスを構築

22

6. 日本と世界の栄養最前線に関する論点とアプローチ ②

- 多様なパートナーシップ、マルチセクターとの協働、市民参画・次世代との協働
 - ⇒情報、経験の共有、多様なプラットフォームの設置・活用
 - ⇒多様な文化、伝統の尊重
 - ⇒貧困・地球環境・ゴミ対策・フェアトレードなどに取り組む若者との協働・連携
- 学際的取組、研究の推進
 - ⇒幅広い保健医療分野（口腔衛生、精神・心理学、伝統医学など）及び、保健医療を超えた学際的な研究や取組み（経済、社会、教育、工学、コミュニケーションなど）
- イノベーション・ITの活用
 - ⇒民間企業とのパートナーシップ
 - ⇒IT インフラの整備、AIの活用、ITリテラシー
- サイエンス・エビデンスに基づく取組、アカウンタビリティの仕組みの構築
 - ⇒国際基準・ガイドランの策定への幅広い参画、実施のための能力開発
 - ⇒データの収集、分析、活用
 - ⇒モニタリングの実施、情報の公表

25



Thank you

26

栄養の"目覚めシリーズ"第1回ご参加者リスト

No.	氏名	肩書
1	山本 尚子	WHO事務局長補
2	武見 敬三	参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟会長代行
3	塩崎 恭久	衆議院議員 元厚生労働大臣
4	高木 美智代	衆議院議員 国際母子栄養改善議員連盟副会長
5	今井 絵理子	参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟事務局次長
6	寺田 静	参議院議員 国際母子栄養改善議員連盟メンバー
7	江副 聡	外務省 国際保健政策室長
8	稲岡 恵美	外務省 国際保健政策室 課長補佐
9	武井 貞治	厚生労働省 大臣官房国際保健福祉交渉官
10	清野 富久江	厚生労働省 保健局健康課栄養指導室長
11	河邑 忠昭	財務省 国際局開発政策課長
12	柳川 優人	財務省 国際局開発政策課国際保健専門官
13	松下 茜	農林水産省 食料産業局企画課課長補佐
14	津金 昌一郎	国立研究開発法人 国立健康・栄養研究所 所長
15	下浦 佳之	(公社) 日本栄養士会 専務理事 (日本栄養士会会長 中村 丁次様代理)
16	森島 千佳	味の素(株) グローバルコーポレート本部食品事業本部 執行役員
17	重宗 之雄	(公財) 味の素ファンデーション 専務理事
18	黒岩 卓	(株)電通 パブリックアカウント局 アカウント・ディレクター
19	丸山 和則	DSM Japan K.K. 代表取締役社長
20	高野 守	JICA 経済開発部参事役 (JICA 上級審議役 佐藤 正様代理)
21	榎本 雅仁	上智大学 リサーチフェロー
22	池内 孝夫	(一社) 共同通信社 編集局 科学部 次長
事務局 :		事務局7名

栄養の“目覚めシリーズ”

第1回日本と世界の栄養最前線に関する論点：2021年2月8日進行表

場所：ホテル「ルポール麹町」3階会議室「エメラルド」

式次第

時刻	内容	発表等の時間
7:00	開場	
7:30	開始	
7:30	開催のあいさつ及び登壇者ご紹介：日本リザルツ	1分
7:31	武見敬三先生他ご挨拶	10分
7:41	基調講演（山本尚子氏）	20分
8:01	武見敬三先生による意見交換等全体協議進行	20分
8:21	武見敬三先生をはじめ議出席議員からの総括	10分
8:31	終了のあいさつ：日本リザルツ	0.5分
9:00	9時には会議室閉鎖	

次回以降の予定

場所・時間等1回目と基本的に同じ

番号	タイトル	予定時期	モデレーター/パネリスト	基調講演
第1回	日本と世界の栄養最前線に関する論点	2月8日	武見敬三氏	WHO 事務局長補 山本尚子氏
第2回	動き出した Japan Nutrition	4月13日	(財務省、外務省、厚労省、共同通信)	味の素株式会社社長 西井孝明氏
第3回	栄養と UHC	5月末	厚労省前医務技監 鈴木康裕氏	フォーブス・アジア編集長 ジャスティン・ドナルド氏
第4回	健康な食事を支える Japan Food Technology	8月前半	日本栄養士会長 中村丁次氏	ハーバードビジネスレビュー誌編集長 アディグ・ネイヤス氏
第5回	栄養サミットを控えて：Post SDGs と栄養政策	10月	武見敬三氏	ランセット編集長 リチャード・ホトン氏

開催時期及びパネリストは現時点での予定にて変更の可能性あり。

第1回日本と世界の栄養最前線に関する論点：2021年*月*日進行表

場所：ホテル「ルポール麹町」3階会議室「エメラルド」

式次第

時刻	内容	発表等の時間
7:00	開場	
7:30	開始	
7:30	開催のあいさつ及び登壇者ご紹介：日本リザルツ	
7:30	**氏他ご挨拶	10分
7:40	基調講演（****氏）	20分
8:00	**氏による意見交換等全体協議進行	20分
8:20	**氏をはじめご参加者からの総括	10分
8:30	終了のあいさつ：日本リザルツ	0.5分
9:00	9時には会議室閉鎖	

次回以降の予定

場所・時間等1回目と基本的に同じ

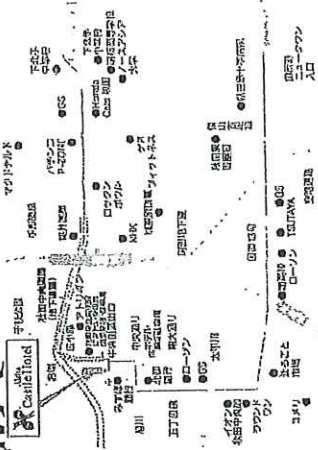
番号	タイトル	予定時期	モデレーター/パネリスト	基調講演
第1回	日本と世界の栄養最前線に関する論点	2月8日	武見敬三氏	WHO 事務局長補 山本尚子氏
第2回	動き出した Japan Nutrition	4月13日	(神田真人氏 財務省国際局局长)	味の素株式会社社長 西井孝明氏
第3回	栄養と UHC	5月末	厚労省前医務技監 鈴木康裕氏	フォーブス・アジア編集長 ジャスティン・バル氏
第4回	健康な食事を支える Japan Food Technology	8月前半	日本栄養士会長 中村丁次氏	ハーバードビジネスレビュー誌編集長 アディグ・ネンヤス氏
第5回	栄養サミットを控えて：Post SDGs と栄養政策	10月	武見敬三氏	ランセット編集長 リチャード・ホトン氏

開催時期及びパネリストは現時点での予定にて変更の可能性あり。

Global Fund、Gavi、GHITファンド (GGG) + フォーラム秋田2021 (案)

GGG+フォーラム秋田2021: 東京栄養サミット2021に向けて

日時: 2021年6月7日 (月) 10:00-18:30
 会場: 秋田キヤッスルホテル 秋田県秋田市中通1丁目3番5号 TEL:018-834-1141
 主催: (特活) 日本リザルツ (一社) 平和と健康の会 ACTION



開催趣旨: GGG+フォーラムは、ユニバーサルヘルズカバレッジ (UHC) と持続可能な開発目標 (SDGs) の実現に向け2016年から開催されており、感染症対策、貧困問題、人間の安全保障、子どもの健康改善、女性のエンパワーメントなどより様々なアクトアを巻き込んで包括的に議論を行ってきました。去年は7月13日に一回目を開催し、12月17日に第二回目を開催しました。より多くのステークホルダーが意見交換を行うことで、包括的な視点からオールジャパンでグローバルヘルズの改善に向けた取り組みを促進します。次回は、愛媛県を含む四国周辺での開催を考えています。



秋田県栄養視察 6月6日 (日) *バスツアー最大20人
 秋田県内のGGG+関連施設の視察

ご挨拶 (10:00-10:40)

- 官総務からのビデオメッセージ ■ 御法川信英 衆議院議員 ■ 佐竹敬久 秋田県知事 ■ 達増拓也 岩手県知事 ■ 近県関係者 ■ 中谷比呂樹 GHIT Fund 会長からGGG+のご説明と基調講演

第1部 (10:40-12:00) 結核セッション

- ★小野崎郁司 (同会) 結核予防会/元WHO ■ 江副聡 外務省国際保健政策室長 ■ 大塚製薬 ■ 富士フイルム ■ 栄研化学 ■ ニプロ ■ 厚生労働省
- 企業 ■ 秋田県健康福祉部保健・疾病対策課課長 他

ランチセッション (12:00-13:00) うまみセッション

- 秋山寿之 味の素 ■ 秋田県関係者 他

第2部 (13:00-16:00) 栄養セッション〜秋田から世界への発信〜

- 御法川信英 衆議院議員 ■ 三浦公嗣 慶応大学 ■ 中村丁次 日本栄養士会 ■ 鈴木康裕 厚生労働省前医務技監 ■ 関連県の管理栄養士養成学校
- 榎本雅仁 元森林水産庁 ■ 山本公一 日本リザルツ ■ 清野富久江 厚生労働省 ■ 稲岡恵美 外務省 ■ 企業 ■ 武蔵順洋 秋田県健康福祉部健康づくり推進課課長 他

第3部 (16:00-16:45) 教育と栄養セッション

- ★中野隆 日本リザルツ/栄養士 ■ 栗脇啓 日本リザルツ副代表 ■ 企業 ■ 松吉由希子 Global Partnership for Education 他

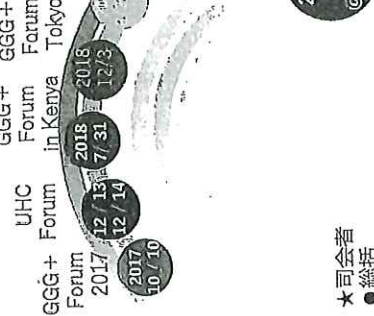
コーヒーブレイク (16:45-17:00) *途中退出可

第4部 (17:00-18:30) マルチステークホルダー栄養トークセッション

- 中村丁次 日本栄養士会によるトーク ■ 秋田栄養士会 ■ 近県栄養士会 ■ 清野富久江 厚生労働省 ■ 稲岡恵美 外務省 ■ 秋田県関係者 他

閉会 (18:30-19:00) ■ 重宗之雄 味の素ファンデーション ■ 秋田県

総務司会: 日本リザルツ



- ★司会者
- 総括
- 参加者

RESULTS
 the power to end poverty

連絡先: 日本リザルツ 伊東結美 (yumi.ito.results@gmail.com) 作成日: 2021年1月18日

RESULTS
the power to end poverty

貧困と飢餓をなくすための政策提言を行う
国際市民グループ

日本リザルツ

Tel: 03-6268-8744 Fax: 03-3597-3448

E-mail: results.japan@gmail.com



内閣総理大臣
菅 義偉 様

令和3年1月吉日

「GGG+フォーラム秋田2021」に向けたご面談のお願い

謹啓 時下益々のご清祥のこととお喜び申し上げます。

菅義偉内閣総理大臣におかれましては、持続可能な開発目標（SDGs）とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成に向けた活動につきまして格別のご厚情、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私たちは2016年から毎年 GGG+フォーラムを開催しており、国会議員の先生方や関連省庁、企業や大学、学生や市民団体の方々のご尽力により大好評いただいております。本年も6月7日（月）に「GGG+フォーラム秋田2021:東京栄養サミット2021に向けて（仮）」と題し、秋田で栄養分野を中心としたフォーラムを開催させていただきます。本フォーラムを、東日本大震災からの復興として世界に発信する機会ともしたいと考えております。秋田で開催する理由は、下記の3点ございます。

- 秋田県は、県を挙げての減塩運動を展開し、学童や県民に対する栄養教育、栄養改善を積極的に進めています。
- 日本の学校給食の歴史は山形県から始まり、秋田県の旧高梨村（現大仙市、旧池田家）で全国初めての学校給食が開始されました。
- 今年12月に開催予定の、東京栄養サミット2021の成功に向け、日本が栄養分野で世界をリードすべく、秋田から世界へ向けて様々なことを発信していきたいと思っております。

つきましては、GGG+フォーラム秋田の成功に向けて、ご説明申し上げたく存じます。菅義偉内閣総理大臣におかれましては、是非1月中の面談を、ご検討いただけますようお願い申し上げます。以下5名の参加者で、お伺いしたく存じます。

- 中村 丁次 公益社団法人日本栄養士会会長
- 西井 孝明 味の素株式会社代表取締役社長
- 渋谷 健司 キングス・カレッジ・ロンドン教授(1月31日にイギリスへ帰国予定)
- 宮田 裕章 慶応大学医学部教授 保健医療 2035 策定懇談会構成員
- 白須 紀子 特定非営利活動法人日本リザルツ代表

特定非営利活動法人 日本リザルツ代表 白須 紀子

TEL:03-6268-8744 FAX:03-3597-3448

Email: yumi.ito.results@gmail.com (担当:伊東 結美)

GGG+フォーラム秋田2021 地域の栄養改善に向けた取組のご提案

2021年2月

日本リザルツ

RESULTS
the power to end poverty

新型コロナウイルス禍にも負けない健康増進を支援するために、
地域の栄養ケアステーションと道の駅の連携を提案します

1. 地域のコミュニティ施設でもある「道の駅」に栄養ケアステーションとしての機能を

主に高齢者や生活習慣病等の基礎疾患を抱える皆さんは、感染した際の重症化に大きな不安を抱えています。また、外出自粛により栄養バランスを気にする方も増加しています。

日本栄養士会が提唱する「栄養ケアステーション」構想は、これらの人々への直接的な栄養相談によって、コロナに負けない健康な体づくりが期待できます。これに連携する場として、全国に広がる「道の駅」の活用を提案します。

2. 防災拠点として注目される「道の駅」を、地域の健康啓発の拠点に

「道の駅」は集客力が高く、地域の栄養豊富な食材や料理を提供しています。

管轄する自治体のご協力の下、栄養士の派遣・駐在、官民連携による、健康な食事の提供まで含めた包括的な栄養相談が実現できます。

これによって、地域の防災拠点である道の駅を、地域の健康啓発の拠点化することを目指します。

「自助、共助、公助、そして『絆』」の実現のためにまず秋田で実証実験を！

「栄養士・管理栄養士による食習慣改善相談窓口」の設置

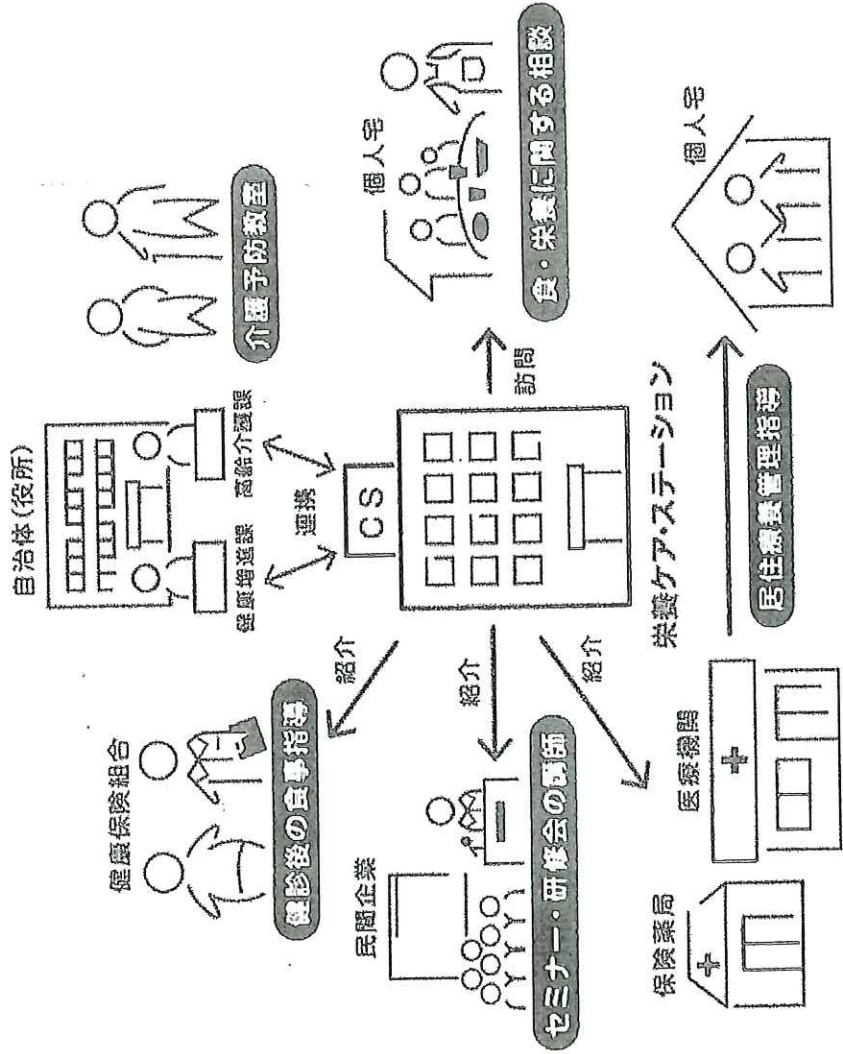
栄養改善メニューの提供

包括的な栄養改善情報の提供

日本栄養士会の取組【栄養ケア・ステーション】の推進は 地域ぐるみでの「新型コロナウイルス重症化リスクの削減」にも貢献

栄養ケア・ステーションの仕組み

栄養ケア・ステーションは、食・栄養の専門職である管理栄養士・栄養士が所属する、地域密着型の拠点です。地域住民の方はもちろん、医療機関、自治体、健康保険組合、民間企業、保険薬局などを対象に管理栄養士・栄養士をご紹介、用途に応じたさまざまなサービスを提供します。



栄養ケア・ステーションの活動を通じた
厚生労働省「保険者努力支援制度」の積極的な活用を！

【制度の概要】

保険者（都道府県・市町村）における予防・健康づくり、医療費適正化等の取組状況に応じて交付金を交付する制度。

全ての国民が自らががんを含む生活習慣病を中心とした疾病の予防、合併症予防を含む重症化予防、介護予防、後発医薬品の使用や適切な受療行動をとること等を旨とし、特定健診やがん検診の受診率向上に取り組みつつ、個人や保険者の取組を促すインセンティブのある仕組みを構築する。（取組成果に応じて交付額を決定）

【予算と交付金の支払い】

R2度予算：1000億円（県500億円＋市町村500億円）

本制度は、自治体の主体的な取組を評価し、成果に応じて交付金を交付。

令和2年度の保険者努力支援制度(全体像)

市町村分 (500億円程度)

保険者共通の指標

- 指標① 特定健診・特定保健指導の実施率、メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率
- 特定健診受診率・特定保健指導受診率
 - メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率
- 指標② 特定健診・特定保健指導に加えて他の健診の実施や健診結果等に基づく受診勧奨等の取組の実施状況
- がん検診受診率
 - 歯科健診受診率
- 指標③ 糖尿病等の重症化予防の取組の実施状況
- 重症化予防の取組の実施状況
- 指標④ 広く加入者に対して行う予防・健康づくりの取組の実施状況
- 個人へのインセンティブの提供の実施
 - 個人への分かりやすい情報提供の実施
- 指標⑤ 加入者の適正受診・適正服薬を促す取組の実施状況
- 重複・多剤投与者に対する取組
- 指標⑥ 後発医薬品の使用促進に関する取組の実施状況
- 後発医薬品の促進の取組・使用割合

国保固有の指標

- 指標① 取納率向上に関する取組の実施状況
- 保険料(税)取納率
 - ※ 過年度分を含む
- 指標② 医療費の分析等に関する取組の実施状況
- データヘルス計画の実施状況
- 指標③ 給付の適正化に関する取組の実施状況
- 医療費通知の取組の実施状況
- 指標④ 地域包括ケアの推進に関する取組の実施状況
- 国保の視点からの地域包括ケア推進の取組
- 指標⑤ 第三者求償の取組の実施状況
- 第三者求償の取組状況
- 指標⑥ 適正かつ健全な事業運営の実施状況
- 適切かつ健全な事業運営の実施状況
 - 法定外繰入の解消等

都道府県分 (500億円程度)

指標① 主な市町村指標の都道府県単位評価

- 主な市町村指標の都道府県単位評価(※)
 - ・ 特定健診・特定保健指導の実施率
 - ・ 糖尿病等の重症化予防の取組状況
 - ・ 個人インセンティブの提供
 - ・ 後発医薬品の使用割合
 - ・ 保険料取納率
- ※ 都道府県平均等に基づく評価

指標② 医療費適正化のアウトカム評価

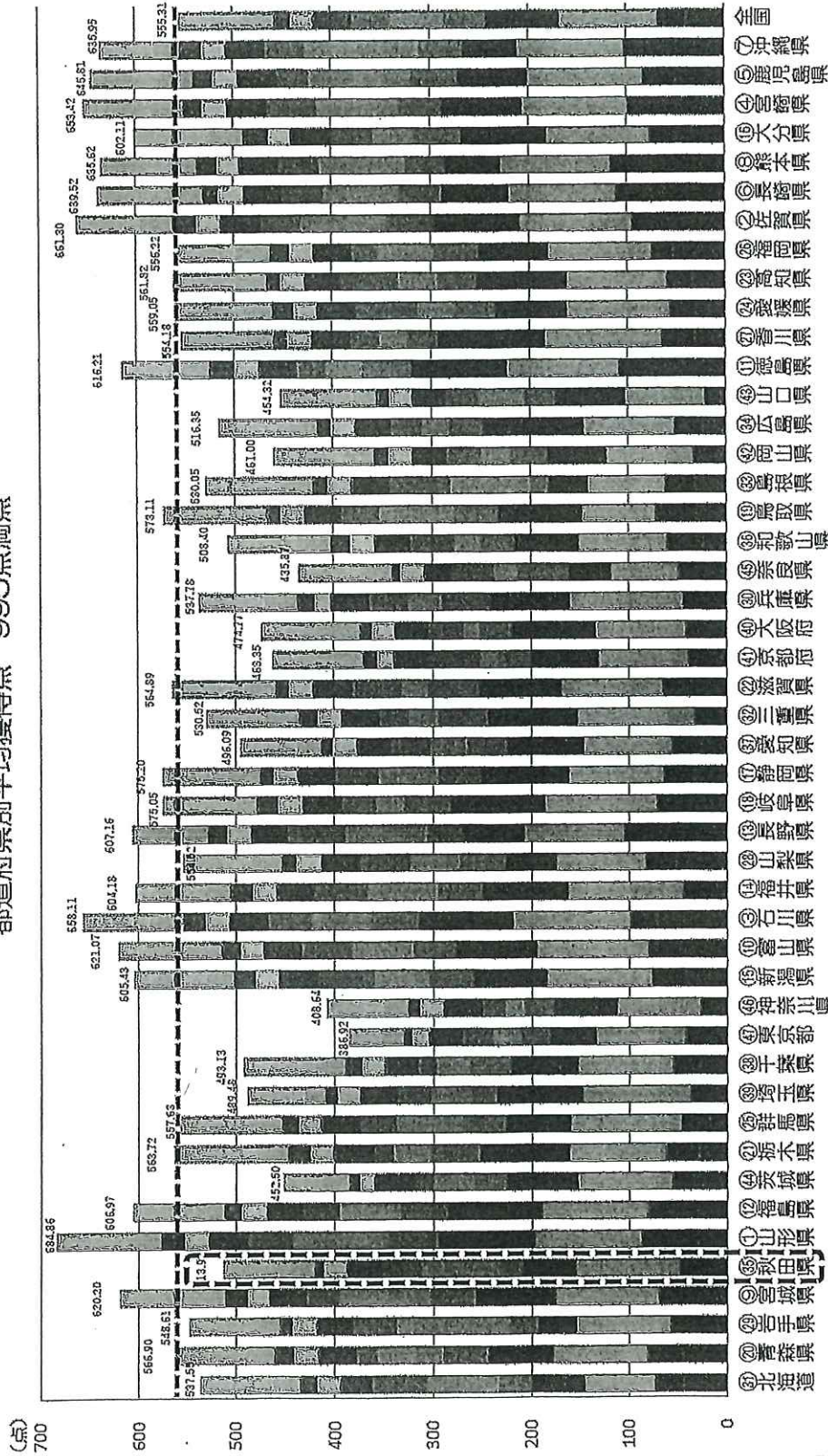
- 年齢調整後一人当たり医療費
- ・ その水準が低い場合
- ・ 前年度(過去3年平均値)より一定程度改善した場合に評価
- 重症化予防のマクロ的評価

指標③ 都道府県の取組状況

- 都道府県の取組状況
- ・ 医療費適正化等の主体的な取組状況 (保険者協議会、データ分析、重症化予防の取組 等)
- ・ 医療提供体制適正化の推進
- ・ 法定外繰入の解消等

秋田県には支援活動改善の可能性が高い。
 本事業を通じた得点UPによる交付額増を！

令和2年度保険者努力支援制度（市町村分）
 都道府県別平均獲得点 995点満点



- 共通1 特定健診・保健指導・メタボ(190点)
- 共通2 がん検診・歯周疾患健診(70点)
- 共通3 重症化予防(120点)
- 共通4 個人インセンティブ(110点)
- 共通5 重症服薬(50点)
- 共通6 シェアリング(130点)
- 固有1 収縮率(100点)
- 固有2 テータヘルス(40点)
- 固有3 医療費通知(25点)
- 固有4 地域包括(25点)
- 固有5 第三者求償(40点)
- 固有6 シェアリング(130点)
- 固有7 医療費通知(25点)
- 固有8 適正かつ健全な取組(95点)

6月7日、GGG+フォーラム秋田2021において 本プロジェクトを全国に発信します

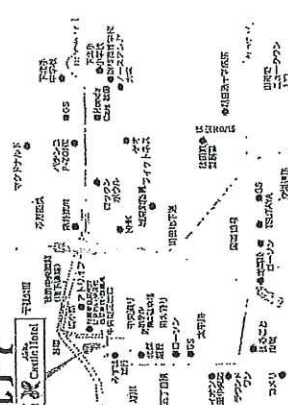
*このプログラム案は、
現時点での案であり、
確定ではありません。

Global Fund、Gavi、GHITファンド (GGG) +フォーラム秋田2021 (案)

GGG+フォーラム秋田2021：東京栄養サミット2021に向けて

日時：2021年6月7日 (月) 10:00-18:30
会場：秋田キャッスルホテル 秋田県秋田市中通1丁目3番5号 TEL:018-834-1141
主催：(特活) 日本リザルト (一社) 平和と健康の会 ACTION

開催趣旨：GGG+フォーラムは、ユニバーサルヘルズカバレッジ (UHC) と持続可能な開発目標 (SDGs) の実現に向け2016年から開催されており、感染症対策、貧困問題、人間の安全保障、子どもの健康改善、女性のエンパワメントなどより様々なアクトーを巻き込んで包括的に議論を行ってきました。去年は7月13日に一回目を開催し、12月17日に第二回目を開催しました。より多くのステークホルダーが意見交換を行うことで、包括的な視点からグローバルヘルズの改善に向けた取り組みを促進します。今回は、愛媛県を含む四国周辺での開催を考えています。



秋田県栄養学 6月6日 (日) *バスツアー最大20人
秋田県内のGGG+関連施設の視察

ご挨拶 (10:00-10:40)

■ 菅総理からのビデオメッセージ ■ 御法川 暎英 衆議院議員 ■ 佐竹 敬久 秋田県知事 ■ 連増 拓也 岩手県知事 ■ 近県関係者 ■ 中谷比呂樹 GHIT Fund 会長からGGG+のご説明と基調講演

第1部 (10:40-12:00) 結核セッション
■ 小野崎 利司 (司会) 結核予防会/元WHO ■ 江副 聡 外務省国際保健政策室長 ■ 大塚 製菓 ■ 富士フイルム ■ 栄研化学 ■ ニプロ ■ 厚生労働省

■ 企業 ■ 秋田県健康福祉部保健・疾病対策課課長 他
ランチセッション (12:00-13:00) まみセッション
■ 畠山 寿之 味の素 ■ 秋田県関係者 他

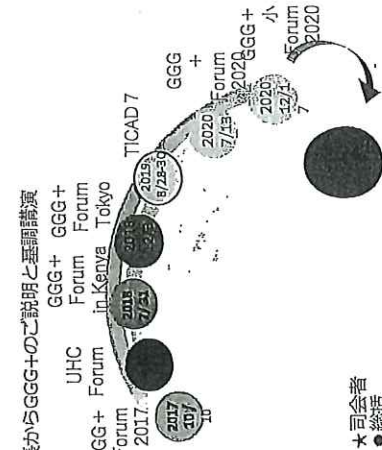
第2部 (13:00-16:00) 栄養セッション〜秋田から世界への発信〜
■ 御法川 暎英 衆議院議員 ■ 三浦 公嗣 慶応大学 ■ 中村 丁次 日本栄養士会 ■ 鈴木 康裕 厚生労働省前医務技監 ■ 開運の管理栄養士養成校
■ 榎本 雅仁 元農林水産省 ■ 山本 公一 日本リザルト ■ 清野 富久江 厚生労働省 ■ 福岡 恵美 外務省 ■ 企業 ■ 武蔵順洋 秋田県健康福祉部健
康づくり推進課課長 他

第3部 (16:00-16:45) 教育と栄養セッション
■ 中野 隆 日本リザルト/栄養士 ■ 栗田 啓 日本リザルト副代表 ■ 企業 ■ 松吉 由希子 Global Partnership for Education 他

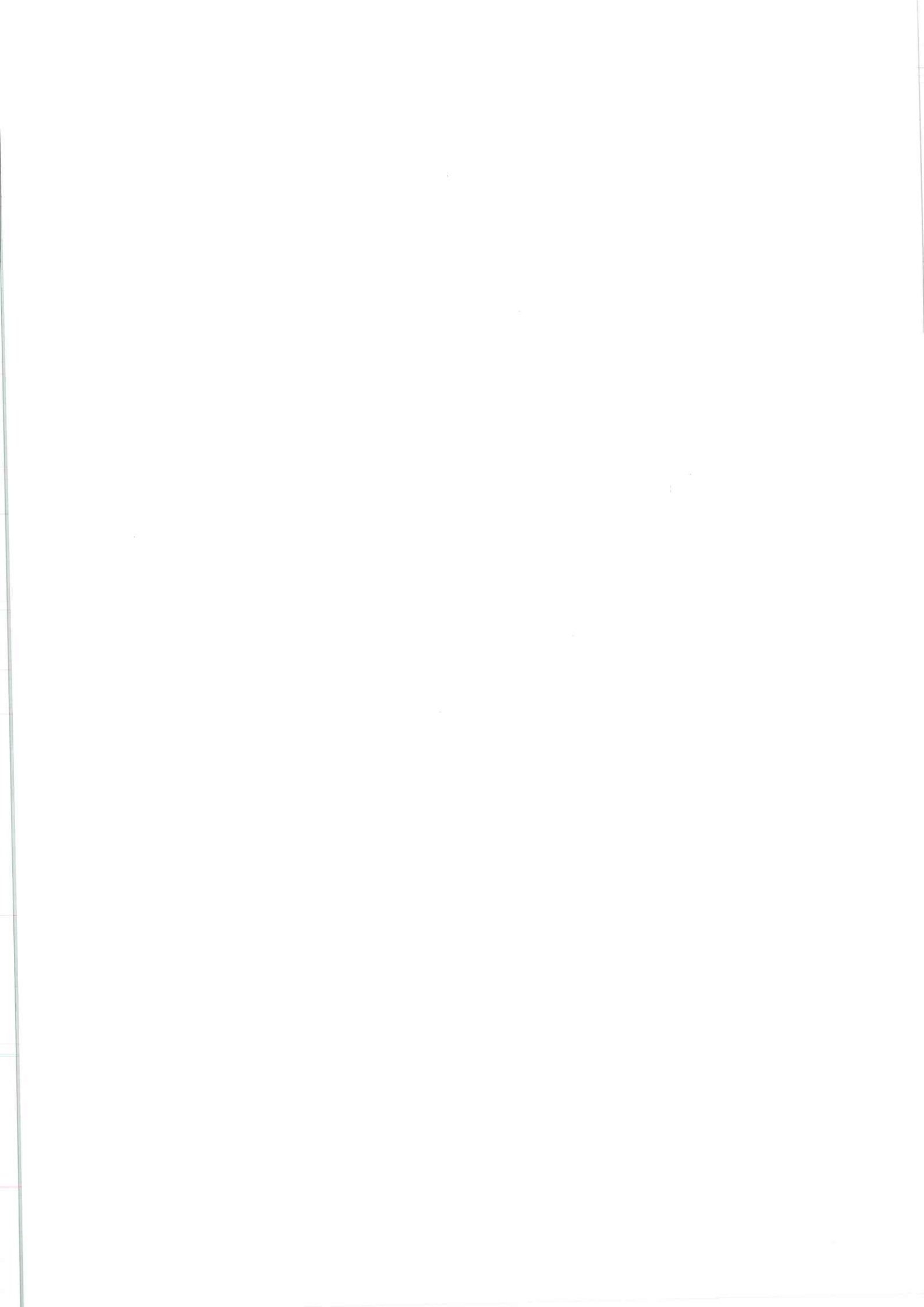
コーヒーズセッション (16:45-17:00) *途中退出可
第4部 (17:00-18:30) マルチステークホルダー栄養トークセッション
■ 中村 丁次 日本栄養士会によるトーク ■ 秋田県栄養士会 ■ 近県栄養士会 ■ 清野 富久江 厚生労働省 ■ 福岡 恵美 外務省 ■ 秋田県関係者 他

閉会 (18:30-19:00) ■ 重宗之雄 味の素ファンデーション ■ 秋田県
総会司会：日本リザルト

連絡先：日本リザルト 伊東結美 (yumi.ito.results@gmail.com) 作成日：2021年4月18日



RESULTS
The Power of Partnership





特定非営利活動法人 日本リザルツ [RESULTS Japan]
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-6-14 三久ビル 503
 TEL: 03 6268 8744 / FAX: 03 3597 3448
 MAIL: results.japan@resultsjp.org / URL: www.resultsjp.org